

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18

350
184

德島縣杖土茶一班

始



350
184

德島縣林業一班

緒言

一 本縣模範林事業ノ成績ハ明治四十二年十月其第一回報告ヲ發刊シ、爾來連年刊行シ施設經營及其成績ヲ公ニセリ、然ルニ今ヤ本事業ハ豫定ノ計畫ヲ遂行シ所期ノ成績ヲ舉ケツ、アルヲ以テ毎年之レカ詳細ナル報告ノ必要ヲ認メズ、如今模範林事業ノミナラズ本縣ニ於ケル森林ニ關スル概況及施設經營及其成績ノ一班ヲ摘録刊行スルコト、シ今後本編ト模範林事業成績報告トヲ交互隔年毎ニ發行セムトス

一 本編ハ主トシテ大正元年末現在ノモノヲ調査掲載セルモ同年末現在ヲ調査スル能ハサルモノハ不得止前年末現在ニ依リ最近ノ調査ヲ完才セルモノハ之ヲ集録セリ

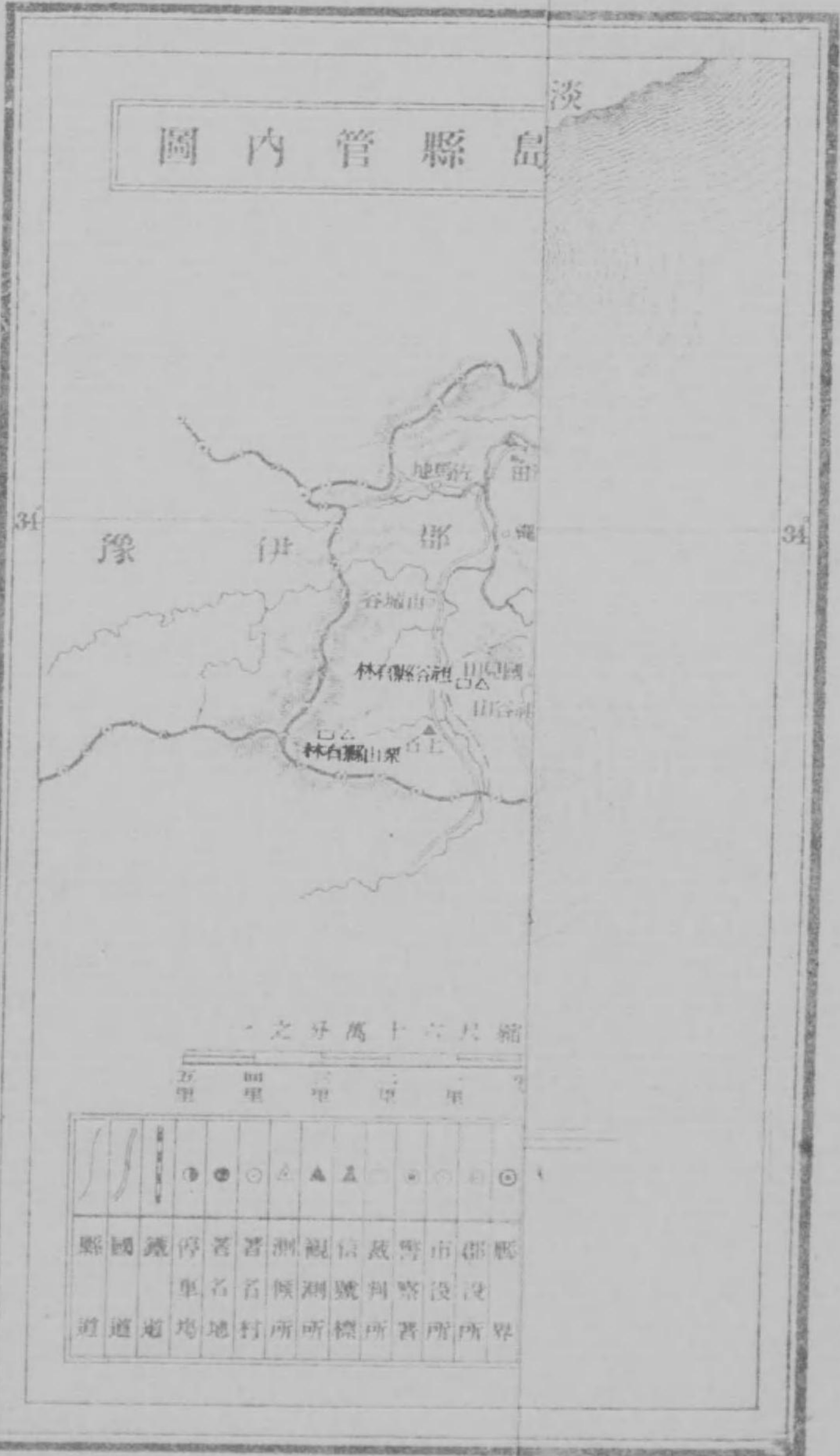
大正二年十月

德島縣內務部林業課

12.11

內交

島縣管內圖



山
林



德島縣管內圖



縮尺六十二萬分之一

五里 四里 三里 二里 里 零十里

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 縣國 | 鐵 | 停 | 著 | 著 | 洲 | 親 | 信 | 裁 | 警 | 市 | 郡 | 郡 | 國 |
| 道 | 道 | 場 | 地 | 行 | 所 | 所 | 標 | 所 | 署 | 所 | 所 | 界 | 界 |

凡例

山
林

祖谷縣有林

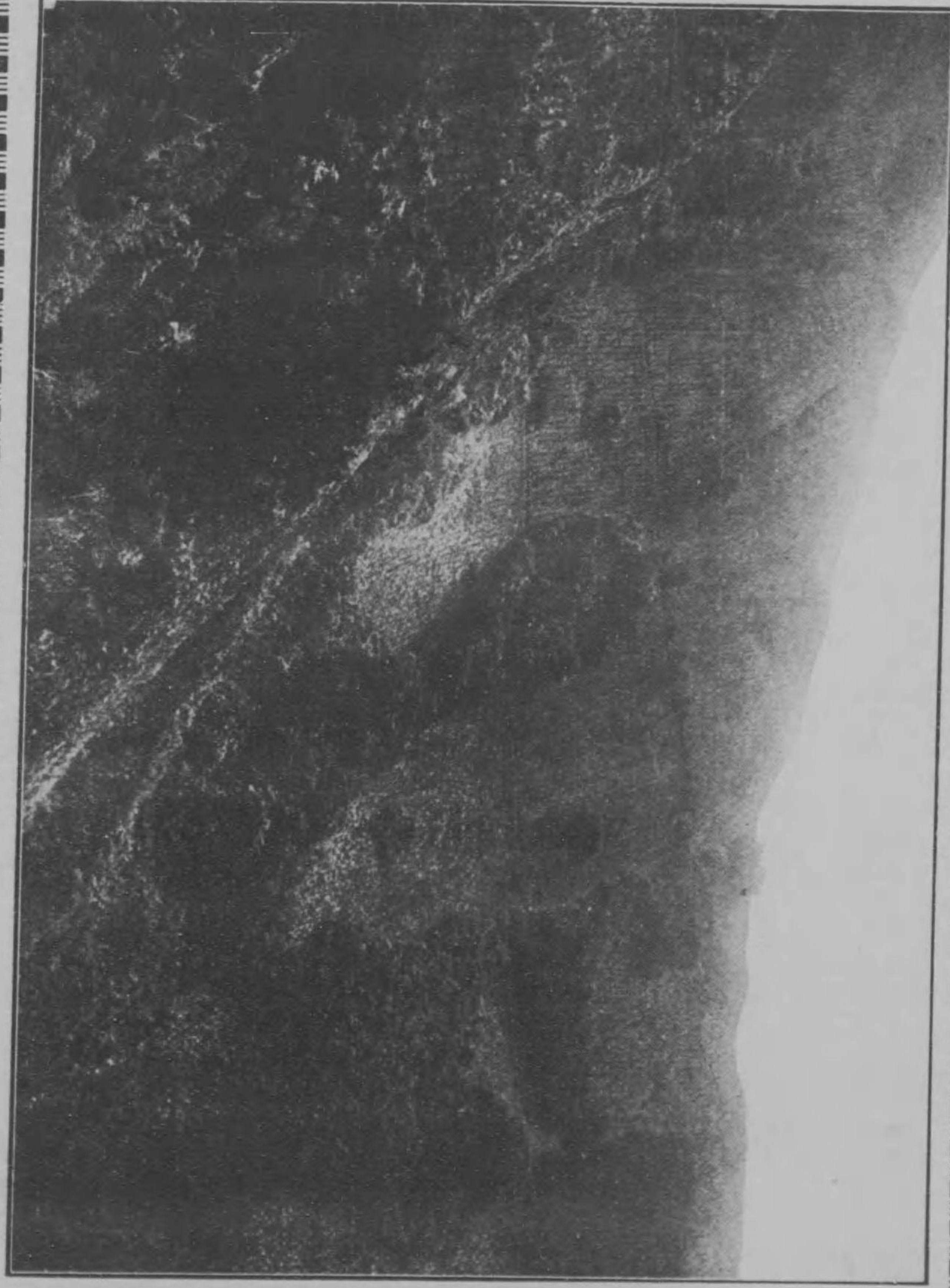
德島縣模範林十箇所ノ内美

馬郡西祖谷山村に在る祖谷

縣有林(面積百八拾六町四反

八畝貳步)ノ内明治四十一年

春季植栽地一部の光景あり



春季蘇鉄嶺一帯の光景あり

八幡須走)ノ内四谷四十一号

黒杉林(面積百八拾六町四反)

黒漆西藤谷山林ヲ穿る藤谷

樹島黒藪林十箇所ノ内美

藤谷黒杉林

德島縣林業一斑

目次

| | | |
|-----|------------------|----|
| 第一編 | 地理 | 一 |
| 第一章 | 位置、地勢、地質及山嶽、河川一覽 | 一 |
| 第二章 | 氣候及雨量 | 九 |
| 第三章 | 土地及戶口ノ分布 | 一四 |
| 第四章 | 交通 | 一六 |
| 第五章 | 德島縣管區沿革 | 一八 |
| 第二編 | 森林制度ノ沿革及林況 | 二〇 |
| 第一章 | 森林制度ノ沿革 | 二〇 |
| 第二章 | 林況 | 二六 |
| 第三編 | 森林ノ施設經營 | 三〇 |
| 第一章 | 國土保安ノ施設經營 | 三〇 |
| (イ) | 保安林 | 三〇 |

大正 〇 九 二 12. 11
内交

| | | | |
|----------|-----------|-------------|----|
| 第二章 | (一)(八)(口) | 荒廢地復舊事業 | 三六 |
| | | 森林開墾 | |
| | | 標柱建設 | |
| 植樹獎勵及補助 | | | |
| 植樹補助金 | | | |
| 樹苗無償交付 | | | |
| 公有林野造林補助 | (ハ)(口)(イ) | | |
| 第三章 | (ハ)(口)(イ) | 林業ニ關スル智識ノ普及 | 四六 |
| | | 講習、講話 | |
| | | 實地指導 | |
| 第四章 | (口)(イ) | 模範林 | 四九 |
| | | 縣設模範林 | |
| | | 樟模範林 | |
| | | 樹苗圃事業 | |
| 第五章 | (ハ)(口)(イ) | 公有林野ノ整理 | 五四 |

| | | |
|-----|------------|----|
| 第六章 | 入會關係ノ整理 | 五六 |
| 第七章 | 森林組合 | 五七 |
| 第四編 | 林野火入取締 | 五八 |
| 第五編 | 林産業ノ概況 | 五九 |
| 第一章 | 木竹工業 | 六〇 |
| 第二章 | 木炭 | 六三 |
| 第三章 | 椎茸 | 七一 |
| 第四章 | 林業ニ關スル各種組合 | 七二 |
| 第六編 | 郡有林 | 七四 |
| 第七編 | 市町村有林 | 七五 |
| 第八編 | 德島縣山林會 | 九〇 |

| | | |
|----|------|---|
| 附錄 | 林業統計 | 一 |
| 第一 | 林業講習 | 一 |

| | | |
|-----|----------------|----|
| 第二 | 標柱建設成績表 | 二 |
| 第三 | 樹苗圃ノ個所坪數 | 三 |
| 第四 | 樹苗圃苗木數ノ一 | 三 |
| 第五 | 全上ノ二 | 五 |
| 第六 | 公有社寺有私有林開墾 | 六 |
| 第七 | 鑛產調 | 七 |
| 第八 | 竹林ノ個所面積 | 九 |
| 第九 | 林野火災面積及損害見積價格調 | 一〇 |
| 第十 | 火入許可件數及面積 | 一三 |
| 第十一 | 公有林植栽 | 一三 |
| 第十二 | 社寺有林植栽 | 一四 |
| 第十三 | 私有林植栽 | 一七 |
| 第十四 | 公有社寺有私有林伐採(用材) | 一八 |
| 第十五 | 全上(薪炭材) | 二〇 |
| 第十六 | 全上(竹) | 二四 |

| | | |
|-----|-----------------------|----|
| 第十七 | 林產物營業製造販賣高調 | 二五 |
| 第十八 | 公有社寺有私有林被害 | 二六 |
| 第十九 | 林產物雜類 | 二六 |
| 第二十 | 基本財產林、模範林、學校演習林、學校樹栽林 | 二四 |

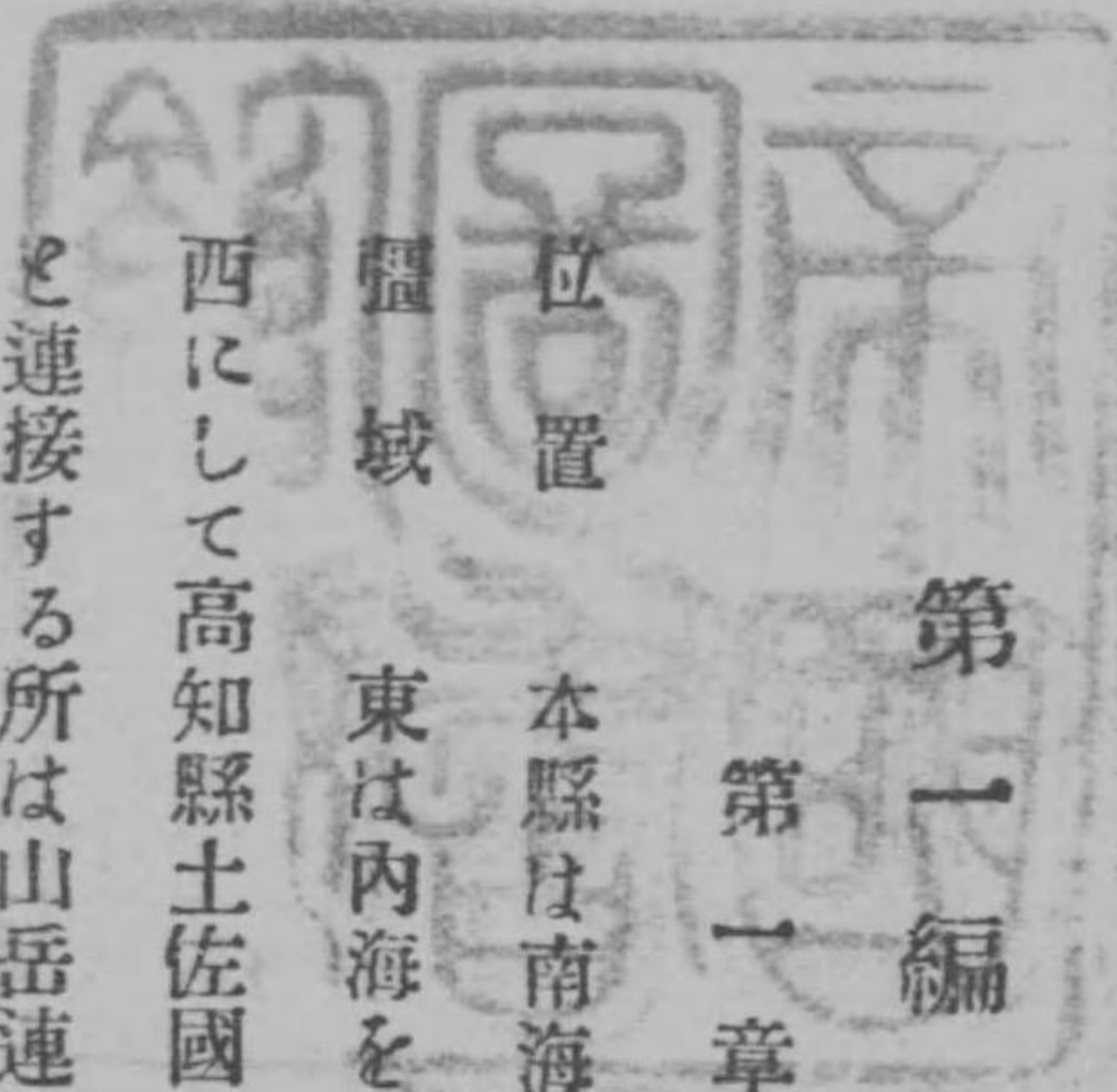
徳島縣林業一斑

第一編

地理

第一章

位置・地勢・地質



位置

本縣は南海道に屬し四國の東南部に位し阿波國一市十郡を管轄す

疆域

東は内海を隔て和歌山縣紀伊國と相對し南方一半は太平洋に臨み一半は稍

西にして高知縣土佐國に界し西は愛媛縣伊豫國に接し西北香川縣讚岐國に連る此三縣と連接する所は山岳連綿起伏し行路夷ならず東北は海に瀕し鳴門海峽を挟み兵庫縣淡

路國と相對す

東徑百三十三度四十一分より起り百三十四度四十九分に至り北緯三十三度三十一分より起り三十四度十五分に至る東西二十七里二十一町にして南北二十一里十八町に亘り其面積は二百六十三方里二二なり

地勢

本縣の地勢は西北に峻嶮にして東南に低伏し縣域の内外幾多の高峰峻嶺相重疊し巨川細流此間を流れ地勢最も錯雜を極め三帶の山脉は縣内に走り其内最も高峻なるものは縣の中央にありて吉野、那賀二大川の分水嶺たり之れを劍山山脉と云ふ（劍山海拔高二千七十三米）東に走せ旭丸山の東、雲草山に至り二脈となり一は高根山大影山を頂き尙東に進んで中津峯に終る一つは少しく南に曲折して那賀勝浦の郡界をふせり那賀川の南にあるは海部山脉にして本縣第二の高嶺に屬し吉野川の北にあるは阿讃國境を爲す最低の山脉にして國境山脉是れなり而して源を其間に發せる諸川は概ね急流にして其崖底を削磨すること大なり其の主要なるものを吉野川、那賀川、勝浦川及海部川とす

吉野川は其流域四國四縣に跨る大川にして源を土佐國土佐郡東川村宇瓶ヶ森の山間に發し本縣に入り三好郡の西部を北流し途に伊豫國より來れる伊豫川に合し夫より東して美馬、阿波、麻植の三郡を過ぎ石西、板野、名東郡に於て數派に分れ東海に注ぐ水源

よりの流程實に六十里縣内を通する三十餘里所謂四國三郎の稱あるもの之あり、那賀川は源を海部郡奥木頭村の溪流に發し東流三十餘里以て海に注ぐ、勝浦川は勝浦郡福原村殿河内山より發源し本郡を東流すること十三里にして海に入る、海部川は海部郡川上村榎木屋山に發し東南に向ひ更に南下海に注ぐ長さ十里孰れも舟楫の便あり

地質 本縣の地質は主として水成岩より構成せる地層にして年代に因て大別すれば太古、古生、及中生の三層あり太古層の尤も發達せるは劍山脉の北面一帯の地にして吉野川に接して其跡を絶つ基岩は黑色千枚岩滑雲母片岩綠泥片岩紅簾片岩等の極めて剝離し易き片岩系より成る古生層は前者に次ぎ生成したるものにして粘板岩、砂岩、角岩、石灰岩、凝灰岩、輝岩の累層より成り劍山脉の南面より延て阿波南部全体の基岩を成せり中生層は吉野川の北部に發達し國境山脉は都て本層より構成せらる又南部にては古生層中の窪地たる勝浦川の谷間に沈積成層にして一小區域を含む（主に勝浦郡棚野村附近）之を組成せる岩類は蠻岩、砂岩、板泥岩等にして勝浦川の窪地にては

稀れに石灰の薄層を挿入せり本層の砂岩中旭村に露出せるものは「ドリョリヤ」の化石を埋藏し方言之れを千鳥石と稱す則ち中生層の白亞紀に相當するを知る、而して本層を構成せる岩類と古生層のものと外觀性質共に相似たるも古生層の岩類に比すれば一層崩壊し易し要するに本層の岩類は極めて大氣雨霜に浸蝕霉爛せられ易き種類のもの大部を占む

山嶽一覽

| 名稱 | 所屬地名 | 海面ヨリノ高さ | 山頂へノ里程 |
|------|-----------------|---------|--------|
| 劍山 | 麻植郡木屋平村美馬郡東祖谷山村 | 六、四五二 | 四、一八 |
| 國見山 | 美馬郡西祖谷山村 | 四、六五一 | 〇、二〇 |
| 雄島山 | 同郡東祖谷山村 | 四、三二〇 | 一、二〇 |
| 黒笠山 | 同郡一字村大字一字奥山村 | 五、四〇〇 | 一、二一 |
| 築ヶ山 | 同郡東祖谷山村 | 五、四〇〇 | 一、二六 |
| 烏帽子山 | 同上 | 五、五一二 | 一、三五 |

| 名稱 | 所屬地名 | 海面ヨリノ高さ | 山頂へノ里程 |
|-----|--------------|---------|--------|
| 寒峰 | 同上 | 五、二九六 | 一、〇〇 |
| 中津山 | 同郡西祖谷山村 | 四、七七五 | 一、一八 |
| 友落山 | 同郡端山村大字東端山村 | 二、五二〇 | 一、一〇 |
| 津司嶽 | 同郡一字村大字一字口山村 | 二、五二〇 | 〇、三〇 |
| 大瀧山 | 同郡岩倉村大字岩倉村 | 三、一一四 | 一、〇三 |
| 三頭山 | 美馬郡重清村 | 二、七〇六 | 〇、二五 |
| 龍王山 | 同郡郡里村大字郡里山村 | 三、四八八 | 〇、二八 |
| 阿串峰 | 同郡江原村大字曾江村 | 二、二六四 | 〇、一八 |
| 女休山 | 同上 | 二、四一三 | 〇、一八 |
| 八面山 | 同郡一字村大字一字奥山村 | 二、五二〇 | 一、〇〇 |
| 高越山 | 麻植郡川田村 | 三、七〇五 | 一、一四 |
| 伊笠山 | 阿波郡大俣村大字大墓村 | 三、二〇〇 | 一、一八 |
| 城玉山 | 同郡同村大字日開谷村 | 三、九〇〇 | 一、二五 |
| 鎗渡山 | 那賀郡澤谷村大字岩倉村 | ? | 五、二〇 |

| 名種 | 河川 | 水源地名 | 管内經過 | 里程 |
|------|---------------|------|-------|------|
| 舍心山 | 同郡加茂谷村大字加茂村 | | ? | 一、二四 |
| 袴越山 | 板野郡大津村大字大代村 | | ? | 一、〇九 |
| 布生山 | 三好郡山城谷村 | | 三、四三二 | 三、〇〇 |
| 大川山 | 同郡三野村大字太刀野山村 | | 三、四四三 | 二、〇〇 |
| 雲邊寺山 | 三好郡佐馬地村大字白地村 | | ? | 一、二四 |
| 高根山 | 名西郡神領村 | | ? | 〇、二二 |
| 燒山寺山 | 同郡下分上山村大字左右内村 | | ? | 〇、一〇 |
| 建治山 | 同郡入田村 | | ? | 〇、一八 |
| 石立山 | 海部郡奥木頭村大字北川村 | | ? | 一、〇〇 |
| 霧越山 | 同郡川上村大字小川村 | | ? | 一、一〇 |
| 八郎山 | 同郡赤河内村大字山河内村 | | ? | 〇、三〇 |

河川一覽

三好、美馬、阿波、麻植、
名西、名東、板野、七郡

| | | | |
|------|-----------|---------|-------|
| 藤谷川 | 三好郡三名村 | 三好郡 | 一三、〇〇 |
| 白谷川 | 同郡山城谷村 | 同上 | 五、〇八 |
| 伊豫川 | 伊豫國宇摩郡上山村 | 同上 | 三、〇〇 |
| 曾江谷川 | 讃岐國大川郡奥山村 | 美馬郡 | 三、〇〇 |
| 佐野川 | 三好郡佐馬地村 | 三好郡 | 三、二〇 |
| 穴吹川 | 麻植郡木屋平村 | 美馬郡 | 一〇、〇〇 |
| 貞光川 | 美馬郡一字村 | 同上 | 六、〇〇 |
| 野村谷川 | 同郡郡里村 | 同上 | 三、〇〇 |
| 鍋倉谷川 | 同上 | 同上 | 三、〇〇 |
| 半田川 | 三好郡三庄村 | 同上 | 四、〇〇 |
| 祖谷川 | 美馬郡東祖谷山村 | 美馬郡 | 一三、〇〇 |
| 小祖谷川 | 同上 | 同上 | 五、〇〇 |
| 上山川 | 名西郡上分上山村 | 名四、板野二郡 | 一〇、〇〇 |
| 飯尾川 | 麻植郡西尾村 | 名東、名西二郡 | 一四、〇〇 |

| | | | |
|------|----------|---------|-------|
| 鮎喰川 | 名西郡上分上山村 | 名東、板野二郡 | 三、〇〇 |
| 別宮川 | 名東郡北井上村 | 同上 | 三、〇〇 |
| 今切川 | 板野郡北島村 | 板野郡 | 三、〇〇 |
| 那賀川 | 海部郡奥木頭村 | 那賀郡 | 二八、〇〇 |
| 桑野川 | 那賀郡新野村 | 同上 | 六、二四 |
| 南川 | 海部郡奥木頭村 | 海部郡 | 七、〇〇 |
| 千本谷川 | 同上 | 同上 | 三、〇〇 |
| 大谷川 | 同上 | 同上 | 四、〇〇 |
| 古屋川 | 同郡中木頭村 | 同上 | 一三、〇〇 |
| 勝浦川 | 勝浦郡福原村 | 勝浦郡 | 一三、〇〇 |
| 海部川 | 海部郡川上村 | 海部郡 | 一〇、〇〇 |
| 笹無谷川 | 同上 | 同上 | 四、〇〇 |
| 日和佐川 | 同郡赤河内村 | 同上 | 四、二八 |
| 北河内村 | 同上 | 同上 | 三、二〇 |

瀬川 名東郡佐那河内村 名東郡 四、二四

第二章 氣候及雨量

一、管内經過里程三里以上のものを掲ぐ

地勢前述の如くにして縣内多くの山脈は悉く東方に向つて延長し遂に縣の東端に於て海中に沈む其秀抜なるものは劍山々脈にして縣内を南北に別ち北部を吉野川流域とし東南部を那賀郡、海部川の流域とす従て氣候も一樣なる能はず即ち南部は寒暑の差著しからざるも北部地方は其差甚しく殊に美馬三好二郡の高峰は冬間積雪絶ゆることなく従て植物發育の狀況南部に比し著しき相違を示す雨量も亦兩部共に多少の差あれども概言すれば本縣東南部の低地は北西部の山岳地方に比し降水量常に多し今本縣測候所に於ける最近の調査に係る氣温降水量を掲ぐれば左の如し

| | | | | | |
|-----|----------|-------|-----|----------|-------|
| 觀測所 | 平均氣温(攝氏) | 降水量 | 觀測所 | 平均氣温(攝氏) | 降水量 |
| 德島 | 一七、一 | 一八一・二 | 大寺 | 一七、五 | 一六六・〇 |

| | | | | | |
|----|------|------|------|------|------|
| 大枝 | 一四、七 | 二六一九 | 市場 | 一七、五 | 一七九五 |
| 池田 | 一六、五 | 一七九七 | 尖喰 | 一八、九 | 三四九五 |
| 神野 | 一八、六 | 三五七〇 | 富岡 | 一七、四 | 二〇三四 |
| 和食 | 一六、九 | 二八〇九 | 下分上山 | 一六、二 | 二一八六 |
| 川井 | 一五、四 | 1 | 川島 | 一七、七 | 一七四三 |
| 臨阿 | 一七、八 | 一七九五 | 小松島 | 一七、三 | 一七三〇 |
| 福原 | 一七、一 | 二八四五 | 日和佐 | 一八、六 | 二八二一 |
| 椿泊 | 一八、四 | 二六八三 | | | |

第三章 土地及戸口の分布

本縣は地勢の關係上山林原野多きを占め全面積の七割以上に達し耕地面積は一割内外を過ぎず而して人口は一方里平均二千七百八十人の多さに及ぶ其分布は左表の如し

土地の分布

| 地種目 | 官有 | 民有 | 計 | 人口千人當面積 |
|-----|---------|---------|---------|---------|
| 田 | 1町 | 二五、八八〇町 | 二五、八八〇町 | 三五、四町 |
| 畑 | 五 | 三九、四八七 | 三九、四九二 | 五四、〇 |
| 宅地 | 一 | 四、八七〇 | 四、八七一 | 六、七 |
| 鹽田 | 1 | 五三六 | 五三六 | 〇、七 |
| 池沼 | 一七五 | 三九六 | 五七一 | 〇、八 |
| 山林 | △ 二、三六三 | 一七二、七三七 | 一七五、一〇〇 | 一三九、三 |
| 原野 | 1 | 一、三五〇 | 一、三五〇 | 一、七 |
| 其他 | 四四八 | 一、八三六 | 二、二八四 | 三、一 |
| 計 | 二、九九二 | 二四七、〇九二 | 二五〇、〇八四 | 三四一、七 |

摘要 一、△は國有林野にして明治四十五年三月末日其他は四十四年十二月末日現在なり

戸口の分布

| | | | | | |
|-----|-----|--------|--------|--------------------|----------|
| 郡市 | 町村數 | 現住戸數 | 現住人口 | 面積 | 一方里ノ現住人口 |
| 德島市 | 1 | 一四、九二一 | 六六、九二四 | 一、六一 ^{方里} | 四一、五六七 |

| | | | | | |
|-----|-----|---------|---------|--------|-------|
| 名東郡 | 一 | 一〇、三〇七 | 六一、六六三 | 八、二七 | 七、四五六 |
| 勝浦郡 | 七 | 七、一五 | 三七、六九〇 | 一五、六二 | 二、四一一 |
| 那賀郡 | 二四 | 一五、七〇二 | 九二、六一六 | 三七、五八 | 二、四六四 |
| 海部郡 | 一五 | 八、六二五 | 四九、四一〇 | 五七、五九 | 八五七 |
| 名西郡 | 一二 | 八、二三〇 | 四八、二一〇 | 一四、五六 | 三、三一一 |
| 板野郡 | 二二 | 一九、八〇七 | 一一一、四八一 | 二一、〇〇 | 五、七八五 |
| 阿波郡 | 八 | 七、一五七 | 四〇、二七九 | 八、八四 | 四、五五六 |
| 麻植郡 | 一二 | 八、三七二 | 五一、三〇二 | 一四、九七 | 三、四二六 |
| 美馬郡 | 一六 | 一五、〇四八 | 八八、七〇一 | 五〇、〇一 | 一、七七一 |
| 三好郡 | 一三 | 一二、八二二 | 七三、四九二 | 三三、一七 | 二、二一五 |
| 計 | 一三九 | 一二八、一〇六 | 七三一、七六八 | 二六三、二二 | 二、七八〇 |

第四章 交通

本縣の海岸線は六十里に達し小松島、徳島、撫養、橋、赤石、其他數多の港灣あり大

阪、兵庫並に讃岐、淡路、土佐諸港に帆船の往來ありて連絡を保ち海上運輸の便渺からず又吉野川、那賀川、勝浦川、海部川等の諸川は縣内を貫流し舟筏の便大なるものあり陸運に在りては國縣道延長百二里三十二町其外五百十二里三十三町の里道あり縣内縦横に貫通し鐵道は徳島線船戸、池田間延長工事は今や竣成し近く開通せむとす其曉は鐵路五十三哩餘に及ぶ尙ほ本線は延長して讃岐、伊豫、土佐に連絡敷設の計畫あり所謂四國縦貫鐵道完成せば交通上一生面を開くべく加之小松島港は目下縣費を投じて修築しつゝあり之れが竣功を見るに至らば本縣の交通機關は一層完備の域に達すべきを信ず

第五章 徳島縣管區沿革

明治二年六月松平阿波守封土版籍を奉還し徳島藩を置かるゝや阿波、淡路の二國は舊藩主の領する所なるを以て本藩の所管に屬せり四年七月廢藩置縣の際徳島縣を置き阿波國及淡路國(内津名郡四十)を管轄したりしが同年十一月淡路津名郡四十二ヶ村を合

併し阿淡兩國全部を管轄することとなり名東縣と改稱す六年二月更に讃岐國を加へたりしか八年九月に至り香川縣を置き讃岐國を其所管に移し越へて九年八月名東縣を廢し淡路國を兵庫縣の管轄に屬せしめ阿波國を高知縣の管轄に移し徳島支廳を置き阿波全國を支配す十一年十二月支廳を廢し更に徳島出張所を置く十三年に至り再び徳島縣を置き阿波國全部を管轄することとなり以て今日に迫り明治二十二年市制、町村制施行に際し町村の分合を行ひ一市十郡百三十九ヶ町村とす爾來町村の分合を行はず二十四年郡制を施き同年九月府縣制を施行せらる

第二編

森林制度の沿革及林況

第一章

森林制度の沿革

往古の森林制度を按ずるに利用厚生殊に水源涵養の爲めに森林を保護蕃殖し而して森林の利益は上下之を分ち豪族の獨占を禁止したり中世源賴朝幕府を鎌倉に開きたる以來北條、足利、織田、豊臣の時代の森林制度は文献の徴すべきものなし降て徳川氏に

至り庶政更張し森林の制度亦見るべきものあれども舊阿波藩の森林制度に關する舊記は散逸して其詳細を知るに由なし要するに舊藩に在つては林務は一般政務と區別し獨立して他の牽制を受けず局に當る吏員亦力を林務に専らにし、保護取締遺憾なきを得其の成績見るべきものあり、

手林と稱するは藩有林、定請林と稱する貸下林の如く全く有用樹種の伐採を禁止鎌止林は現今の保安林に該當して最も保護に重きを置き國境の樹木を伐採するものは獄門に梟し其他の犯罪にして重きものは同一の刑に處し又盜伐の賠償として跡地に杉、扁柏、松等の苗木を植付しめ時としては其科獨り犯罪者のみに止まらず其地の村役人より延て村中一般に及ぶことあり民林と雖も妄りに伐採して藩制を犯すものは贓品又は器具を沒收し樹木の價格に對する拾倍以下の罰金に付し甚しきは被害者に於て犯人を棒杭に縛し一夜又は數日間放置し以て私刑の執行を默許せしが如く峻嚴苛酷に過ぐるの嫌ありと雖も一方に於ては貧村にして橋梁等土木工事の費用を自弁する能はざる場

合は無代を以て官木を交付し或は凶年には村役人の申出に依り官林を伐採して臨時授産の方法を講ずる等寛嚴其宜しきを得たるものあり

以下農商務省山林局所蔵の山林沿革史に依り項を別て記載すべし、

官林

官林には數種あり手林とは樓殿造營修繕を始めとし造船等の用に充つる爲め槻、楠、梅、樅、杉、檜、松、檜の八種（之を良材と稱し他は皆雜木と稱す）は藩用の外一切伐採を禁し之を鎌入らずと稱し定請林とは人民の請願に依り槻、梅、樅、檜（之を眞木と稱す）を生せざる地に限り年若干の定請銀と稱する料金を徴收し上木柴草採取の爲め貸下たるものにして若し藩用あるときは返地を命ず而して松生山なる時は種松と號して一反歩五十本以内を建置せ返地の際併せて上納せしむ野山と稱するものは數村或は一村或は一名（名とは村内の何傍示と云ふが如し）入會の秣、肥草刈取場にして徵税を行はず基本民林と稱するは元收稅地ありしも海濱に接し潮風の爲め上木柴草共に生せざるに由り返地したるものなり、

民林

民林にも數種あり淺木林とは採薪用の雜木林にして又杉、檜等を栽培するあり年々十一月を期として定請運上銀と稱し一反歩に付藩札八歩以上を納稅し其伐木は村方役場に願出役員検査の上許可す此制を定めしは今を距る八十年前の事に属し民林と雖も自由伐採を許さざるは藩主の追山と稱し獸類を繁殖せしめ遊獵の用に供せしが爲かり、檜地林は米麥を納稅し柵、榛を栽培し杉、檜等は天然生を用ゆ伐木する時は其手續前に同じ又名負林と稱するものあり入山とは採薪の用に供し野山とは天然生樹木を撫育し又は土地を撰み杉、檜、柵、榛等を栽培す此兩者は藩士に下付せしものなり、札山とは附屬山林なき里村の人民に救助の爲め採薪を許し豫め一人一枚の鑑札を交付し（二匁宛收入）毎年九月より三月迄七ヶ月間を期とし林裁判役出張し日々人名鑑札を改むるの例なり年切林とは松或は淺木（柵、栗、檜、馬目檜、椎其他雜木の總名なり）八年以上十五年毎に人民の請願に依り役員検査の上斧掛り以上の分相當代價を見積り伐仕成日數を定め拂下を爲す修覆林とは寺院（藩主

の祈禱所と定めたる寺院なり一堂宇を始め其他の建物造營修繕等に引當て備置き寺院申立に應じ役員見分の上入用相當作事奉行へ引渡不用の末木等は該寺院へ拂下たるなり、聯合林とは官地を貸與し樹木を栽培せしめたるものにして無稅地あり五ヶ年毎に枝葉及惡木を伐採して之を折半す成木の上間伐す。又同じ

凡そ民林及宅地中掠、楠、槻、松其他造船及軍用に供せらるゝものは保存し之を帳付木と稱し又人民より帳付木に編入を出願することあり、其使用に適するものは適宜伐木し枯倒折損あるときは相當代價を以て拂下くるものとす

前記野山の一部と札山以下の山林は拂下をふし現今大抵民林となれり

官吏

山林官は地方代官(中古林方奉行と稱す)と稱するもの藏奉行兼務にて官民林一切の事務を總理し其下に手代役あり諸般の願伺届を取扱ひ林方檢見役は請願に依り地所拂下の際檢地(丈量反別を定む)を主り其他苗木の栽培或は手入仕成等の事業にも關係す受拂役は官民林に關する一切の金員出納を掌り網積役は手入仕成の費

用或は拂下代價等の見積を行ひ事業地に出張し伐木仕成等の事務を取扱ひ且つ吉野川筋川下ヶ筏舟積等の竹木分一銀取立の爲めに出張するものとす下裁判役は手林の内盜誤伐ある時林方奉行手代役と共に出張吟味を遂げ盜誤伐を分別し郡代所に引渡す等の事務を扱ふものとす、職員の数亦各一定し代官は五人にして家祿百石以上二百石を受くるもの、中より任命し檢見役五人受拂役二人は各家祿七石三人扶持手代役は七人にして家祿五石三人扶持目付役は七十人にして各郡に配置せられ家祿三石乃至四石二人扶持あり其他一百九十五人は無祿ありと雖も何れも名字帶刀を許され課役の特免ある外職俸の扶持又は給料を得るを例とせり

又國內便利の地十四ヶ所に役所を設け林裁判役制道役下見役等を置く林裁判役とは官林巡視主役にして地方役所に出張し小數の拂下木等の手續を行ひ伐木仕成をも監視す其下に制道役あり、林裁判役の命を受け巡回監守に従事し若し犯人盜誤伐者を發見したる時は之を村吏に引渡し護送の手續をなし傍ら林方奉行に報告す若し犯人

抵抗する時は直ちに捕縛す其他官林に隣接する秣場枯草等を焼捨るときは林裁判役へ届出しめ其當日村吏員人民殘らず官林の境に立會し其周圍巾二間内の草木の根を掘取り以て火除となし林裁判役以下之に臨檢す但し林制道役は苗字帶刃を許し下見役は一刀を許す是等は孰も給料を受くることなく義務的に就業するものとす

罰則 若し藩の林木を犯すものあれば林方奉行は下伐下裁判役と連席取糺し郡代役所に引渡し吟味を遂げ士族以下諸役を勤むるものは重きは永牢輕きは三日若くは七日又は拘留數日或は閉門等の末給領取上他國追放又は減祿及幾郡を限り追放す百姓は入牢拘留等の末斬首することあり

産物 樹種は槻、梅、松、楠、檜等は天然混生するも松は純林あり、梅、樅林、樅、楡、杉、檜林、槻、檜林等一區内に多き樹種を以て其林に名くるを例とす副産物の種類左の如し

茶、椎茸、松露、岩茸、葛、蕨粉、蕨繩、ツヅラ葛、樟腦、大田井石、火打石、

椎皮、楊梅及皮、硝石(田肥に用ふ)、千鳥石(硯石)

植林 植林の種類は杉、檜、柗、榛、等地味に隨ひ一樣からず苗木は播種後長一尺より三尺に達するを待て壹坪壹本或は三坪に二本の割に山地に移植す其際柴草等は燒棄或は刈拂の上殖付年數を重ねるに隨ひ間伐を行ふも枝打を行はず松林は伐跡自生の種苗を保護し凡そ十ヶ年目に間伐し四五年毎に枝打或は「イッキ」木を伐除す又潤葉樹は伐株より生ずる萌芽中至長なるもの二本乃至四五本を存し生長せしめ四五年乃至七年に至り下枝を伐採す而して手入の爲め雜木の良木成長を妨くる分並に良材も種木の外は薪炭用等の爲めに伐採す

伐木 手入間伐等を爲すには藩吏自ら出張することあり或は人民に拂下伐採せしむるものあり伐採器具は斧、鋸を用ひ雜木林の伐期は凡そ二十五六十年にして斧掛を以て下枝を残し期月に至り伐採し根伐は必ず斧を用ゆ淺木(最初移植し蕃茂する柗、榛、其他伐採より藥を生し生育するものを云ふ)を根伐するは甲年九月より乙年三

月迄を期とし斧伐に限れり

二三

運材 運材は林地より谷川迄は牛に曳かせ或は人力を用ゆ川流しは出水を待て之を行ひ或は筏を編み川口まで乗下け船積として徳島に達す

貯材 貯材は松・檜は伐採後直ちに水底に（汐引に従ひ眞水とある如きヶ所）沈置し槻は根伐の上倒れたる儘二三年を経過すれば邊材腐朽し心材のみ殘留し之を小仕成木倉に入れ貯ふ其他各種の木材も同斷最も木口立に困ふを可とせり

賣拂 薪用の松林は床賣一升（丈一尺九寸縱横共六尺五寸）に付金何程此枝葉三尺繩胴縮一把代金何程と見積り其中より伐仕成諸費を引去り殘金高何程を以て賣渡すあり又薪材を天秤掛にて賣拂ふことあり伐賃百貫に付何匁（一匁は今の八厘に相當す）を以て仕成賃を計算し枝葉共賣渡方は前者に同じ建築或は小細工用材は品質才數（一寸角長さ二間を以て一才とす）を以て價格を見積り伐仕成諸費を引去り殘金何程を以て賣渡すものとす

上叙の如く阿波藩に於ける森林制度は森林の保護繁殖に重きを措き取締周到寛嚴其宜しきを得たるに依り林地の多くは鬱蒼として晝尙は暗く幾多の美林は各所に存在したりと雖も明治初年徳川將軍大政を奉還し各藩の制度猝かに弛廢し帝國の林政未だ確立せざるに當つて藩林の搬出不便なるもの又は地味瘠惡にして價値なき林地は社寺林を除く外盡く拂下をふし民有に歸したり文化の潮流は年を逐ふて東漸し各種の事業は漸く勃興し交通機關從て發達し木材の需用頗に多きを加へ森林の濫伐暴採は到る處に行はれ十數年を出でざるに早く已に林相は一變して裸禿の状態を呈し又昔日の觀なく早害水災荐りに到り底止する所を知らざらんとす茲に於て保安上經濟上森林經營の忽諸にすべからざるを感ずること痛切なると本縣の風土林業經營に恰適し森林事業は有望あるを認めらるゝに至り明治二十一年山野火入取締規則を發布し山林原野に於ける火入の取締を嚴密にし明治二十九年勸業視察員を他府縣に派遣し森林事業を調査せしめて林業智識の涵養に資し植樹補助金下付規則（明治三十年改正同三十六年植樹補助規

二三

程と改む)を制定して植樹を爲す者に補助金を下付し試験として樹苗を養成し一般特
 志者に配布植栽せしむる等大に造林を奨励し明治三十年森林法の發布あるや本法によ
 り従來の保安林を整理處分し又森林開墾出願手續(明治三十四年縣令を以て改正)を定
 め明治三十二年保安林編入解除申請手續を制定し明治三十三年縣令を以て保安林施業
 規程を發布し以て保安林の施業取締を勵行せり明治三十五年森林調査規程を設け委員
 を置き一般林業に對する施設調査を行ふと同時に營林方法の指定、造林命令、開墾禁
 止區域及保安林編入調査等をふすこととせり次で明治三十六年に至り本縣林業經營の
 方針を立て縣費豫算中に森林整理費(明治四十一年林業費と改む)を設け技師、技手、
 助手等(明治三十九年勅令に依り林業技師、林業技手と改む)を置き十五ヶ年間に森林
 整理事業を完成することとし又明治三十六年度全五十八年度に至る二十三ヶ年間繼續
 事業として摸範林千五百町歩を各郡に分置し付屬樹苗圃を數ヶ所に設け苗木を養成し
 て營林の範を示し且つ養成の苗木にして剩餘ある時は希望者に配付せり、又林業講習

規程を制定し林業に關する智識の普及發達に努め且つ従來規定したる保安林編入解除
 申請手續保安林施業規程等を廢し新に保安林取扱規程を定む如斯林務愈々複雑を加へ
 たるを以て内務部に特に一課を設置して第六課と稱し明治三十八年地方官々制改正に
 依り第三部林務係と改め同四十年地方官々制改正に依り林業課と改め現今に至れり明
 治三十九年縣令を以て林産製造法傳習規則を定め先づ製炭教師を置き各郡に傳習所を
 設置して改良製炭法及醋酸石灰製造法の普及發達を圖り明治四十一年改正森林法の實
 施さるゝや森林法施行細則を制定し(明治四十二年改正)森林警察令を發布し林産物に
 使用すべき記号、印章及火入取締に關する規程を定めたり又従來施行の植樹補助規程
 は明治三十九年度限り廢止したるが更に樹苗交付規則を發布し國土保安に關係ある箇
 所に造林する者、郡市町村及社寺公益團體の造林其他己人の造林をなす者に對し樹苗
 を無償交付し造林を奨励し産業組合設立に對し補助金を交付し來りしが同四十二年更
 に森林組合の設立に對しても補助金を交付し其設立を奨励せり明治四十三年公有林野

造林補助規則を發布し公有林野の造林を行ふものに對し補助金を交付獎勵し明治四十四年荒廢地復舊費補助金交付規則を發布し治水上重要な關係を有する公私有社寺有休安林に於ける地盤保護工事及同植樹事業に補助金を交付し其復舊に努め又古來林野に對し火入の弊習ありたるが森林法一部改正せられたるを以て火入をふし得べき場合を指定し尙は森林警察令を改正し火入の取締を嚴にせり如斯一面には積極的方法を以て誘掖獎勵以て斯業の發達を圖り一面には森林法を勵行せるに依り逐年造林面積増加しつゝあり此趨勢を以て推移せば將來造林其効を奏し國土保安上の効果を收むべきのみならず林産物を増殖し富源を涵養し縣民の福祉を増進するに庶幾らむか。

第二章 林 況

本縣山林の公簿面積は實に拾七萬千五百二十五町歩にして其内國有林貳千三百六十三町歩あり民有林のみを以て本縣全面積の約七割を占め耕地の約三倍に當る今之を所有別に表示せば左の如し

| 郡市 | 公有林 | | | | | 社寺有林 | 私有林 | 計 |
|----|---------|---------|------|--------|----------|----------|----------|-----------|
| | 國有林 | 縣有 | 郡有 | 市町村有 | 其他團體有 | | | |
| 德島 | | | | 二、四 | 一、一 | 一、三 | 一、八、三 | 一三、〇 |
| 名東 | | | | 一、八 | 二、四七、一 | 六五、〇 | 二、五四、七 | 二、八五、七 |
| 勝浦 | | 一、五、七 | | 二、三、七 | 一、一〇六、一 | 二九、一 | 八、八七、三 | 一〇、一六、九 |
| 那賀 | | 一〇六、七 | 六二、三 | 一、五五、〇 | 二、六七五、四 | 三、〇七九、四 | 二五、二四二、三 | 二六、九一七、九 |
| 海部 | | 三四、二 | 四四、三 | 二二、三 | 九、七六五、五 | 一〇、三三六、三 | 一〇、三三六、三 | 三〇、八三九、一 |
| 名西 | | | 五 | 一、五 | 八〇一、三 | 八三、三 | 八、一六六、〇 | 九、〇五四、五 |
| 板野 | | 九六、〇 | | 二九八、〇 | 九〇、一 | 一、三〇、一 | 一〇、四三七、三 | 一一、八五五、五 |
| 阿波 | | 四三、七 | 一六、二 | 一〇、〇 | 七、七 | 一四一、六 | 五、〇〇九、八 | 五、二六、三 |
| 麻植 | | 二五、六 | 七 | 二〇九、一 | 一三七、二 | 五六二、六 | 二〇、一〇〇、二 | 二二、二八三、九 |
| 美馬 | 二、三六二、八 | 一〇、五 | | 六、七、五 | 一四〇、五 | 九八、四 | 二五、五九〇、〇 | 二八、九三九、二 |
| 三好 | 二 | 七、七 | | 二四八、八 | 一、〇四九、三 | 一、三七四、八 | 二二、〇四三、九 | 二三、六九六、九 |
| 計 | 二、三六三、〇 | 一、〇八九、〇 | 二四、〇 | 一、八〇、一 | 一六、九〇四、四 | 一九、九二七、五 | 一、八〇五、七 | 一七、一五九六、〇 |

本縣の林野は森林植物帶上より觀察する時は水平的に於ては全部暖帶の區域に屬する

も垂直的に於ては其上部界は平均二千五百尺に達し其以上の地域は温帯林に屬し能く植物の成育に適し生長頗る旺盛なり近時杉、扁柏、赤松、黒松、樺、樟等人工植栽行はれ各所に於て是等の美林を見るに至れるは喜ぶべし

本縣林野の現況は山林全面積の過半は樹林地にして他は散生地又は無立木地たり而して其林相の主なるものは櫟、枹、シデ、ソロ、等の落葉潤葉樹にして椎、櫛の常緑潤葉樹之れに亞き其間多少の樅、柾を混生す、赤松及黒松は多くは單純林にして黒松は海岸又は本縣南部地方に赤松は主として山岳地を占領するも時に櫟、枹、其他落葉潤葉樹と混生せる箇所尠しとせず今立木地に於ける樹種別存立割合を掲ぐれば略々左の如し

| | | | |
|----|-------|---|-------|
| 松類 | 一五、〇% | 杉 | 一五、〇% |
| 扁柏 | 〇、六% | 櫛 | 〇、六% |
| 柾 | 〇、八% | 樅 | 〇、六% |
| 雜木 | 三二、〇% | | |

竹は縣下に於ける重要林産物の一にして其産額實に五万二千余圓に達し多く縣外に移出せらる種類は苦竹を主とし淡竹之に次ぐ縣内産地として著名なるは吉野川沿岸（殊に美馬三好二郡）の地なるも那賀川流域にも亦尠なしとせず而して近來價格の昇騰と收利の早きとに依り所在漸次植栽の傾向あり而して尙縣下に於ける主要なる樹木を擧示すれば左の如し

針葉樹

すぎ ひのき もみ つが かや いぬがや むろ あかまつ くるまつ、

常緑潤葉樹

あかがし ちかしのき やまぐるま やぶにつけい つばき さかさ ひさかさ ろよこくす まさき さんごじゆ しきみ もちのき 等

落葉潤葉樹

くぬぎ こあら おほから くり しで みずきぶき いぬぶき かしわ はやき
さくら かへで類 いものき どののき やまならし はののき どののき ぬる
で はりぎり くるみ はんのき ゑのき ひくろじ うるし はせのき せんだ
ん等

第三編

森林の施設經營

第一章

國土保安の施設經營

明治三十五年六月森林調査規程を設け委員を置き一般林業に對する施設調査をなし併せて森林法に基く營林方法の指定、造林命令、開墾禁止區域及保安林調査を行ふこととし先づ保安林の調査を施行し未だ他の調査に及ばずして明治四十一年森林法の改正ありて本規程は自然廢止するに至り明治四十三年六月森林開墾調査内規を定め同四十五年四月之を改正増補して保安林及森林開墾制限禁止地調査内規と改め即ち改正森林法の規定に基き諸般の調査並に施設をせり茲に其概要を記述すれば左の如し

(イ) 保安林

明治三十年森林法の發布あるや從來禁伐林及伐木停止林にして本法施行後保安林の取扱を受けしむべき箇所を調査告示したり爾來保安林編入の申請を爲す者尠からず且つ縣下公安上の關係を觀るに之が設定を要するもの甚だ多し故に其緩急を稽へ沿海各郡に於ける魚付林、風潮防備林等の編入を先にし漸次土砂扞止林水源涵養林等に及ぼすの方針を取り既に名東、勝浦、那賀、海部、板野五郡に於ける魚付林及風潮防止林ノ編入を了したり明治四十四年以來専ら吉野川流域中治水上重要な關係を有する土砂扞止林の設定調査を行ひ順次之を編入し而して同流域に屬する板野、阿波二郡に於ては畧其編入を了し他は隨て調査し從て編入しつゝあり蓋し本流域に於ける保安林の編入を了らば更に他河川流域に及ばず豫定なり現在保安林は二千八百二十一町一反九畝五歩に達せり其種類別は左記の通りにして森林法發布以前の設定に係る保安林の整理調査は明治四十二年之を了せり

保安林箇所面積種類別

大正二年三月末日現在

| 林種 | 公有 | | 社寺 | | 私有 | | 計 |
|-------|-----|--------|----|--------|----|-----------|-----|
| | 箇所 | 面積 | 箇所 | 面積 | 箇所 | 面積 | |
| 土砂并止林 | 二〇 | 三三、七三三 | 一三 | 四、〇〇八 | 九四 | 六九、〇五〇 | 九五 |
| 飛砂防止林 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 水害防備林 | 四 | 二、四二五 | 一 | 一 | 八〇 | 一、九二二 | 八四 |
| 防風林 | 七 | 八、三三五 | 三 | 一七、三三六 | 九七 | 三、〇九二 | 二七 |
| 潮害防備林 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 類雪防止林 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 墜石防止林 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 水源涵養林 | 一〇 | 三、五三〇 | 五 | 一五、一三〇 | 二二 | 一五、〇六六 | 二七 |
| 魚附林 | 五〇 | 三、七〇三 | 四 | 五、六〇六 | 三六 | 一、三三三、六三三 | 四九 |
| 航行目標林 | 四 | 三、一一三 | 一 | 一 | 三 | 一、九〇二 | 七 |
| 公衆衛生林 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 風致林 | 一五 | 一、九七五 | 三 | 一一、二〇〇 | 八六 | 七、三三三 | 一〇四 |
| 計 | 一五五 | 一、九七五 | 三三 | 一一、二〇〇 | 八六 | 七、三三三 | 一〇四 |

計 禁伐 一五五 三、六、六五六 四五 一〇〇、一〇一九 一、六、九〇 二、二、八、二八七 一、八、三、二 二、一、五、一、五〇一
 禁伐 五 二、六、九二六 二 一、八、四〇一 四 四、九二六 二 一、八、三、二 六、〇四三

(ロ) 荒廢地復舊事業 林野の荒廢は治水上極めて悪影響を及ぼすや茲に言を察せず

政府は治水治山の根本政策を確立し第二十七回帝國議會は明治四十四年度より向ふ十八ヶ年間繼續治水事業費として千六百三十四萬三千圓の支出を議決せり其結果明治四十四年農商務省は省令第十六号を以て荒廢地復舊補助規則を發布せられたり乃ち本縣に於ては此規則に基き荒廢地復舊費補助金交付規則を制定し治水上重要な關係を有する公有社寺有及私有保安林中荒廢せる箇所を指定に基き地盤保護工事を施行するものに對し總工費額の八割五分以内地盤保護植樹をなすものに對しては一町歩に付拾六圓以内の補助金を交付するとおせり而して本事業は主務省の指定に依り吉野川流域より着手施行し同川流域現在保安林中荒廢せる箇所にして復舊工事を要するものは全部査定を了せるを以て治水上の利害關係を考察し其緩急を計り森林法に依り施業方法を指定し之を實行せしめつゝあり明治四十四年度に於て作業を施行し補助金を下付した

るもの及同四十五年度に於て事業を施行するものに對し補助金下付の處分をなしたるものは工事の種類積苗工、谷留石積工、土砂留石積工の三種にして四郡五ヶ町村其成績左の如し

荒廢地復舊事業成績表

| 年次 | ヶ所數 | 事業の種類 | 施行面積 | 施行經費 | | 補助金額備考 |
|--------|-----|--------|---------------------|----------|-----------|-----------|
| | | | | 一町又は一坪當 | 總額 | |
| 明治四十四年 | 四 | 積苗工 | 407.0 ^坪 | 1,950.00 | 7,900.00 | 640,000 |
| 同 | 一 | 谷留石積工 | 33.0 | 3,950 | 82,950 | 69,000 |
| 同 | 四 | 土砂留石積工 | 59.5 | 3,234.50 | 186,495 | 153,000 |
| 計 | 九 | | 487.5 | 9,134.50 | 1,056,495 | 862,000 |
| 明治四十四年 | 四 | 保護植樹 | 0.5700 ^町 | 86,000 | 14,000 | 8,000 |
| 明治四十五年 | 五 | 積苗工 | 1,317.7 | 1,755.00 | 333,600 | 1,620,000 |
| 同 | 一 | 護岸石積工 | 96.0 | 3,750 | 357,600 | 269,000 |
| 同 | 四 | 土砂留石積工 | 166.8 | 3,336 | 555,120 | 401,000 |

| | | | | | | |
|--------|---|-------|--------------------|--------|---------|---------|
| 同 | 一 | 芝台石積工 | 16.3 | 2,470 | 40,161 | 25,500 |
| 計 | 二 | | 150.8 ^坪 | 3,220 | 327,761 | 239,500 |
| 明治四十五年 | 一 | 保護植樹 | 1,000 ^町 | 52,800 | 158,800 | 4,700 |

(ハ) 森林開墾 從來森林開墾は渾て地方長官の許可を要したるか明治四十一年森林

法改正の結果保安林以外の林地の開墾は許可を要せざることとなり而して國土保安上必要ある場合は區域又は箇所を定めて開墾を制限又は禁止することを得べきことに規定せられたるは明治四十一年縣下に於て最も荒廢の虞ある吉野川流域北岸地方に於ける板野、阿波、美馬、三好郡中本流域に關係ある地區は町村内の大字を劃し森林開墾を制限せり然るに管に前記吉野川北岸地方のみならず管内各河川流域に於ける森林原野山岳及荒蕪地に對して之が制限の要あるを認め明治四十四年八月徳島市及名東外八郡内町村中必要ある區域を制限地に編入せり蓋し該區域は更に精査の上國土保安上必要の程度に應じ開墾制限解除、開墾禁止及保安林編入の箇所を定め必要ある場合に於て

は字若くは地番を以て制限區域とせり開墾の禁止又は制限調査は内規に依る其概要凡
ろ左の如し

- 一、保安林又は河川、溪流、池沼、道路、水路、人家、建物、鐵道其他工作物に接近せる森林、原野、山岳又は荒蕪地にして傾斜凡十五度以上のヶ所は開墾を制限し同二十五度以上のヶ所は開墾を禁止すること
 - 二、前号以外の森林、原野、山岳又は荒蕪地にして傾斜凡二十五度以上の箇所は開墾を制限し凡三十五度以上の箇所は開墾を禁止すること
 - 三、基岩脆弱又は土壤輕鬆基岩との結合力乏しく崩壞の虞ある箇所は前二項の傾斜度に拘はらず其必要なる程度に於て開墾を制限又は禁止すること
- 而して板野、阿波並に美馬郡の一部は既に整理調査を了して處分せり

開墾禁止及同制限見込面積

| | | | | | |
|---|---|----|----|----|----|
| 郡 | 市 | 箇所 | 區域 | 箇所 | 區域 |
| | | 開墾 | 禁止 | 開墾 | 制限 |
| | | 箇所 | 面積 | 箇所 | 面積 |

(二)

標柱建設

保安林又は森林開墾制限又は禁止地に標柱を建設し其位置、區域を

| | | | | | | | | | | | |
|-----|-------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|---------|
| 德島 | 名東 | 勝浦 | 那賀 | 海部 | 名西 | 板野 | 阿波 | 麻植 | 美馬 | 三好 | 計 |
| 1町 | 1町 | 1町 | 1町 | 1町 | 1町 | 1町 | 1町 | 1町 | 1町 | 1町 | 1町 |
| 43町 | 2,883 | 10,824 | 28,538 | 30,168 | 7,576 | 11,025 | 5,215 | 19,681 | 27,815 | 22,162 | 165,929 |

標識するは保護取締の周到を期するに最も必要なるものとす乃ち明治四十四年より標柱建設規程に依り先づ吉野川流域板野阿波美馬三好四郡に於ける治水上重要な關係と有する土砂扞止、水害防備、水源涵養保安林に着手し大正元年末迄に二百五十九本を建設したり

第二章 植樹獎勵及補助

本縣に於ける森林伐採面積は年々約四千町歩に達せるも植栽面積は僅に千二三百町歩に過ぎざるが故に比年濫伐の結果良材巨木は漸次減少するは勿論益々林地の衰耗を速くの恐れあるを以て造林事業は實に刻下の要務なりとす然れども林業は特性として農工商業の如く短期間に放下資金の回収を望むべからず目前の小利を犠牲に供し百年の長計を劃するにあらざれば其効果を收むる能はずして彼此其趣を異にし殊に現時の世態人情は眼前の利益に汲々たるを以て獎勵而已に依りて増殖を期すべからず故に補助金を下付し或は樹苗の無償交付をなし斯業の發展を圖り漸く振興の曙光を見るに至れ

り

(イ) 植樹補助金 明治二十九年植樹補助金下付規則(明治三十六年植樹補助規程と

改む)を制定し植樹事業に對し補助金を下付し造林を獎勵すること十年其間補助金壹萬六千參百六拾貳圓參拾八錢貳厘を下付し面積三千八百九十四町四反八畝十八步杉外七種千七萬五千七百廿九本の植栽を見たり各年別成績を擧ぐれば左の如し但該補助金下付規則は明治三十八年度限り廢止せり

植樹補助金下付成績表

| 年 度 | 植 樹 面 積 | 樹 種 | 本 數 | 補 助 金 額 |
|--------|----------|------|-----------|-----------|
| 明治二十九年 | 七七、〇七〇 | 杉外五種 | 四九三、二五〇 | 四〇九、九〇〇 |
| 同 三十一年 | 一〇二、七三〇〇 | 同 | 六五六、八二〇 | 九〇六、一〇五 |
| 同 三十二年 | 一七六、〇五〇〇 | 同 | 一、〇四八、四五一 | 四八九、九二五 |
| 同 三十三年 | 二〇一、〇二〇〇 | 同 | 一、一八二、四八六 | 一、九九九、九九七 |
| 同 三十四年 | 一七七、六七〇〇 | 同 | 一、〇八一、九八八 | 一、八四二、七一五 |

自明治四十四年度
至同四十四年度
樹苗交付成績表

| 樹種 | 自明治四十四年度 至同四十四年度 | | | 樹苗交付成績表 | | | 計 |
|----|---------------------|------------------|----------------------|-------------|---------|-----------|---|
| | 國土保安に關係 ある箇所に造林 | 郡市町村其他 公共團體造林 | 社寺其他公益を 目的とする團體造林 | 其他 己人の造林 | 計 | | |
| 杉 | 一年生 | 二八、〇〇〇 | 一七四、二〇〇 | 二七、八六〇 | 五〇五、二四四 | 七三五、三〇四 | |
| | 二年生 | 二〇、七〇〇 | 四二五、三〇〇 | 三三、五一五 | 二八〇、六九〇 | 七六〇、二一五 | |
| | 三年生 | — | 四三、二〇〇 | — | — | 四三、二〇〇 | |
| 柏屬 | 一年生 | 四八、七〇〇 | 六四二、七〇〇 | 六一、三七五 | 七八五、九三四 | 一、五三八、七〇九 | |
| | 二年生 | 二一、五〇〇 | 一四六、二〇〇 | 六二、四五〇 | 三一〇、二九四 | 五四〇、四四四 | |
| | 三年生 | 六、〇〇〇 | 一五四、八二五 | 六三、九〇〇 | 四四、四六〇 | 二六九、一八五 | |
| 計 | — | — | — | — | — | 四一、五〇〇 | |
| | — | — | — | — | — | 八五一、一二九 | |
| 黒松 | 一年生 | 四、〇〇〇 | — | — | 三五四、七五四 | — | |
| 赤松 | 一年生 | 四、五〇〇 | — | — | — | — | |

| 樹種 | 自明治四十四年度 至同四十四年度 | | | 樹苗交付成績表 | | | 計 |
|----|---------------------|------------------|----------------------|-------------|--------|--------|---|
| | 國土保安に關係 ある箇所に造林 | 郡市町村其他 公共團體造林 | 社寺其他公益を 目的とする團體造林 | 其他 己人の造林 | 計 | | |
| 櫟 | 一年生 | 一〇、五〇〇 | 一九、七三〇 | 一〇、〇〇〇 | 八、三〇〇 | 四八、五三〇 | |
| | 二年生 | — | 九〇〇 | — | 六、五〇〇 | 七、四〇〇 | |
| | 計 | 一〇、五〇〇 | 二〇、六三〇 | 一〇、〇〇〇 | 一四、八〇〇 | 五五、九三〇 | |
| 山 | 一年生 | 五三、二七二 | — | — | 八、一〇〇 | 六一、三七二 | |
| | 二年生 | — | — | — | 二、四二〇 | 二、四二〇 | |
| | 計 | 五三、二七二 | — | — | 一〇、五二〇 | 六三、七九二 | |
| 樟 | 一年生 | — | 七、〇〇〇 | — | 五〇〇 | 五〇〇 | |
| | 二年生 | — | 七、〇〇〇 | — | 四、二五〇 | 一一、〇〇〇 | |
| | 計 | — | 七、〇〇〇 | — | 四、七五〇 | 一一、五〇〇 | |
| 櫟 | 一年生 | — | — | — | — | — | |
| | 二年生 | — | — | — | — | — | |
| | 計 | — | — | — | — | — | |
| 計 | — | — | — | — | — | — | |
| | — | — | — | — | — | — | |
| | — | — | — | — | — | — | |

合 計 一四八、四七二 一、〇二二、八五五 一九八、九七五 一、一八四、八五八 二、五四五、一六〇

(ハ) 公有林野造林事業補助 明治四十三年農商務省令第四号公有林野造林獎勵規則を發布せられたるを以て此規則に基き更に公有林野造林補助規則を制定發布し郡市町村又は町村組合事業として其部内大字其他の部落の所有たりし土地を規則發布後新に市町村の所有に移したる土地に造林せしものに對しては一町歩に付貳拾四圓以内、從來市町村の所有に屬する土地に造林せしものに對し一町歩に付二十圓以内縣郡町村組合又は大字其他の部落の所有に屬する土地に對し造林せしものに對し一町歩に付十六圓以内の補助金を下付し且つ造林の爲め地盤保護工事をなしたるものは總經費の六分の五以内、防火線を設置したるものは其總經費の三分の一以内の補助金を下付することとせり前項苗木交付と相待て逐年殖林思想發達し造林面積増加の趨勢を呈し來り其成績概して良好かり茲に該規則制定後の成績を擧ぐれば左の如し

公有林野造林事業補助成績表

| 年度 | 事業種別 | 町 | | 村 | | 防 | 火 | 線 | 保 | 護 | 工 | 事 | 補助 |
|--------|--------------|--------|-------|-------|-------|---------|---------|----|----|----|--------|-------|--------|
| | | 面積 | 經費 | 補助金 | 設置坪數 | | | | | | | | |
| 明治四十三年 | 規則第一條に對する造林 | 三三、一〇〇 | 九、六三〇 | 一、六九〇 | 五、二六〇 | 三、二五〇 | 八、八〇〇 | 三〇 | 三〇 | 三〇 | 一〇、〇〇〇 | 一、七五〇 | 三、二五〇 |
| | 第二号の土地に對する造林 | 一六、二一〇 | 六、九〇〇 | 一、八三〇 | 一、三七〇 | 五、八二〇 | 一、九、五六〇 | — | — | — | — | — | 二〇、三六〇 |
| | 第三号の土地に對する造林 | 四 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 三七、二一〇 | 一六、五三〇 | 三、五二〇 | 六、六三〇 | 四、六二〇 | 九、一五〇 | 一〇、七六〇 | 三〇 | 三〇 | 三〇 | 一〇、〇〇〇 | 一、七五〇 | 三、二五〇 |
| 明治四十四年 | 規則第一條に對する造林 | 一 | 一、〇〇〇 | 八、〇〇〇 | 一、五二〇 | 五、七二〇 | 一、五、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 九、〇〇〇 |
| | 第二号の土地に對する造林 | 三三、二五〇 | 八、五五〇 | 二、〇八九 | 四、二五〇 | 六、一〇〇 | 二、〇、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 二、二九〇 |
| | 第三号の土地に對する造林 | 四 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 三三、二五〇 | 八、五五〇 | 二、〇八九 | 四、二五〇 | 六、一〇〇 | 二、〇、〇〇〇 | — | — | — | — | — | — | 二、二九〇 |
| 明治四十四年 | 規則第一條に對する造林 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 第二号の土地に對する造林 | 三三、二五〇 | 八、五五〇 | 二、〇八九 | 四、二五〇 | 六、一〇〇 | 二、〇、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 二、二九〇 |
| | 第三号の土地に對する造林 | 四 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 三三、二五〇 | 八、五五〇 | 二、〇八九 | 四、二五〇 | 六、一〇〇 | 二、〇、〇〇〇 | — | — | — | — | — | — | 二、二九〇 |
| 明治四十四年 | 規則第一條に對する造林 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 第二号の土地に對する造林 | 三三、二五〇 | 八、五五〇 | 二、〇八九 | 四、二五〇 | 六、一〇〇 | 二、〇、〇〇〇 | — | — | — | — | — | 二、二九〇 |
| | 第三号の土地に對する造林 | 四 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 三三、二五〇 | 八、五五〇 | 二、〇八九 | 四、二五〇 | 六、一〇〇 | 二、〇、〇〇〇 | — | — | — | — | — | — | 二、二九〇 |

第三章 林業に關する智識の普及

(イ) 講習、講話 殖産興業に伴ひ林業經營は逐年發達しつゝありと雖も本縣林野利用の實況を通觀する時は之が開發増殖を要するもの多く未だ進境に達せず益々林業思想を喚起し斯業に關する智識の普及を圖るの急務なるを認め明治三十六年林業講習規程を發布し縣に於て講習會を開催し又郡町村等の請求に依り技術員を派遣し講習若くは講話を爲さしめつゝありしが同三十九年より德島縣山林會に縣費補助金を交付し之を行はしめ講師は朝野知名の學者或は實業家を招聘する外本縣技術員に囑託し各地に開催せり講習員は當業者は勿論郡市町村吏員小學校教員其他青年會員等にして大正元年末迄に講習會を開催すること四十二回講習員千八百三十七名に達し林業思想を啓發普及に努め成績頗る良好にして斯業の改善發達に貢献したることを信ず

(ロ) 實地指導 林業に關する智識の啓發普及は講習講話に依り稍其目的を達し得べしと雖も尙は林業經營に就ては特殊の技能を要するを以て公有社寺有林は素より私有

林に對しても施業計劃案の作製其他苗木の養成造林及植栽後の手入保護管理等一切の施業方法は縣技術員を派遣し親しく實地指導を爲し經營上遺憾なきを期せしめ斯業の改善發達に努めしに郡市町村及社寺其他團體より之を要求すること比年多きを加へ良好なる効果を收めつゝあり

林業講習調

| 年 度 | 主催者 | 開會數 | | 講習科目 | 講師の氏名 |
|--------|------|-----|----|--------------------------------|--------------------------------|
| | | 回数 | 日數 | | |
| 明治三十六年 | 郡教育會 | 四 | 三四 | 林業汎論、造林學總論、造林學各論 | 德島縣技術師 三木壯太郎 濱藤安太郎 藤原 康雄 |
| 同 三十七年 | 德島縣 | 一 | 一五 | 林業汎論、造林學總論、同各論、森林經理、測樹、森林法規、測量 | 同 藤原 康雄 同 遠藤安太郎 同 片山 匡雄 |
| 明治三十七年 | 郡教育會 | 一 | 七 | 林業汎論、造林學總論、同各論 | 同 藤原 康雄 |
| 同 三十八年 | 德島縣 | 一 | 一五 | 林業汎論、造林學總論、同各論、森林經理、測樹、測量、森林法規 | 同 長谷川峯吉 同 藤原 康雄 |

| | | | | | | |
|--------|--------|-----|------|---------------------------------|--------|------------------------------------|
| 同 三十八年 | 郡農會 | 二一一 | 一〇一 | 林業汎論、造林學總論、同各論 | 德島縣技手 | 藤原 康雄 |
| 同 三十九年 | 德島縣山林會 | 一一五 | 七三 | 造林學、林産製造學、森林法規、測量法大意 | 同 林學士 | 成川 房幸 三村 鐘三郎 片山 匡雄 藤原 誠三郎 |
| 同 四十年 | 同 | 一一四 | 四五 | 林學通論、森林經理學、森林利用學、測量法大意 | 同 林學博士 | 右田 牛四郎 和田 義正 井部 榮基 片山 匡雄 |
| 同 四十一年 | 同 | 一一二 | 一二六 | 林學通論、林政學、造林學、森林保護學、森林法規、林産製造法大意 | 同 林學士 | 堀田 正逸 田原 百藏 三木 壯太郎 福原 誠三郎 |
| 同 四十二年 | 德島縣山林會 | 一一五 | 六八 | 林學通論、造林學、森林利用學、森林法規 | 同 林學士 | 村田 爲治 北村 正夫 阿久根 助市 福原 誠三郎 |
| 同 四十三年 | 德島縣山林會 | 五二五 | 一三六 | 林學大意、造林學大意、林産製造法大意 | 同 技手 | 尾白辰三郎 |
| 同 四十四年 | 同 | 五二五 | 三一六 | 林學大意、造林法大意、簡易測地及測樹法 | 同 同 | 尾白辰三郎 竹内 熊藏 |
| 同 四十五年 | 町村農會 | 二二六 | 一〇九 | 造林學大意 | 同 | 尾白辰三郎 |
| 同 四十六年 | 德島縣山林會 | 六二六 | 一六六 | 林學大意、造林法一般 | 同 | 尾白辰三郎 |
| 同 四十七年 | 町村農會 | 二二五 | 五〇 | 林學大意、竹林經營、公有林野整理 | 同 | 尾白辰三郎 |
| 計 | | 四二二 | 一八三七 | | | |

第四章 模範林

(イ) 縣設模範林 林業は農業、水産業と昇立し本縣三大生産事業の一ありとす然るに明治維新以後到る處濫伐行はれ林地を荒廢し經濟の持續を損し木材需給の權衡を失し且國土保安上の危殆を醸生する等直接間接の損害を蒙ること尠少ならず實に森林事業の興廢は本縣經濟界の消長に至大の影響を有するは言を俟たず因て夙に諸般の施設をなし斯業の助長發達を期せるは前叙の如くあるが明治三十六年度通常縣會の決議に

四十一年度より同四十五年度迄國庫補助金の交付を受け百八十町歩を設置し林地は既設縣有模範林の一部を充用せり然るに内二十町歩は明治四十五年度中に新植を了せざりしに依り次年度に繰越し施業することにあたり其の成績左の如し

| 名 | 稱 | 位 | 置 | 植栽年度 | 植栽面積 | 植栽本數 | 經費 | 備考 |
|----------|--------|--------|----|------|---------|---------|----------|---------------|
| 口立川縣有林 | 勝浦郡棚野村 | 大字棚野村 | 明治 | 四 | 一五、〇〇〇 | 三〇、〇〇〇 | 一八五、四〇〇 | 經費中には苗木代を包含せず |
| 第二宮川内縣有林 | 板野郡御所村 | 大字宮川内村 | 同 | 同 | 五〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 | 七五、一三二 | 同 |
| | | | | | | | | |
| 日開谷縣有林 | 阿波郡大俣村 | 大字日開谷村 | 同 | 同 | 三、一〇〇〇 | 三、六〇〇 | 三、六〇〇 | 同 |
| | | | | | | | | |
| 相川縣有林 | 海部郡川上村 | 大字相川村 | 同 | 同 | 一〇、〇〇〇 | 三、五〇〇 | 八七、四三二 | 同 |
| | | | | | | | | |
| 計 | | | | | 一、〇、〇〇〇 | 三六、七〇〇 | 三、二六、三二八 | |

模範林設置計畫書提要

一 模範林の總面積は一千五百歩を限度とし各郡に之を配置す、但林地の配置は個所面積及經費の都合に因

り合併分割することあるべし

一 前項の林地は不要存置國有林野及民有林野中より自三十六年度至三十八年度三ヶ年間に於て毎年凡五百町歩を標準として買入るゝものとす、但木文買入反別は實地の状況により前項總林地面積の限度内に於て増減することあるべし

一 模範林の造林は明治卅九年度より同五十八年度迄向ふ廿ヶ年間に於て毎年左の樹種を植栽するものとす
杉、扁柏、樟、櫟、白楊類

一 將來に於て尙ほ前項記載以外の樹種を造林するの要あるときは其林業の收支に大差なき場合を限り樹種の變更又は増減を爲すことあるべし

一 模範林の造林方法は主として植樹造林方法によるものとす、但造林地の地況により挿木造林法を用ふる
ことあるべし(以下略)

(ハ) 樹苗圃事業 縣有模範林に植栽すべき樹苗は其林地内若くは附近に苗圃を設置し之を養成し兼て樹苗養成の範を示し剩餘あるときは郡市町村其他公共團體又は箇人に無償交付することとせり現在設置せる苗圃は粟山外三ヶ所其面積貳町六反八畝十四

歩にして尙植樹獎勵の爲め無償交付すべき樹苗養成のため現在設置せる苗圃は徳島外四ヶ所其面積三町五反貳畝十四歩なり、

第五章 公有林野の整理

縣下公有林野の面積は約壹萬五千町歩にして其九割は大字其他部落の所有に屬し管理經營宜しきに適せず荒廢に瀕せむとするもの尠ならず之を市町村に統一歸屬し利用開發を計るは地方林政の急務なるも部落有林野は複雑なる所有關係の存するものあり古來入會慣行の存するものあり殊に部落割據の觀念旺盛にして之を整理統一するは容易の業にあらず然れども之が統一整理は森林經濟上市町村財政上等閑に付すべからざるを以て屢々郡市長に訓示又は通牒を發し切に實行を督勵すると雖も多年の慣習は一朝之を改むること能はず統一頗る困難にして焦慮措かず恰も明治四十三年四月農商務省は公有林野造林獎勵規則を發布し獎勵金を交付せらるゝに會し本縣に於ても公有林野造林補助規則を定め且つ内務農商務兩次官通牒に係る公有林野整理開發の方法に準

據し極力勸奨誘掖し尙は明治四十四年當廳に於ける市町村監督の事務に従事する吏員及林務に従事する吏員等を以て委員を設置し又各郡役所に於ても同様委員を設置せしめ協力指導獎勵に努めたる結果漸く左記の成績を見るに至り今や漸く其機運に向へり此機を逸せず益々督勵を加へ其成功を期せむと欲す

部落有林野整理統一調

大正元年四月末日現在

| 郡 | 町村 | 統一林野面積 | 同上實則又は見込面積 | 備 | 考 |
|----|------|---------|------------|---------------------------------|---|
| 板野 | 一條 | 四六、一五二八 | | 大字西條村より提供 | |
| 同 | 板東 | 一八二六 | | 大字板東外四村共有を無償提供外に畑壹畝八歩提供 | |
| 同 | 里浦 | 六、六五〇四 | | 大字里浦村より無償提供 | |
| 同 | 瀬戸 | 七四、五二二二 | | 村立北泊尋常小學校基本財産として無償提供 | |
| 美馬 | 口山 | 九六、一三一八 | 見込三、九〇〇 | 大字西口山村字大内名より無償提供 | |
| 美馬 | 東祖谷山 | 四、〇三一五 | | 菅生名より學校基本財産として寄付阿佐名より村基本財産として提供 | |

| | | | | |
|----|----|--------------------|----------|--------------------------------------------------------|
| 同 | 西祖 | 四二、三一一二 | 實測 九、三〇六 | 一字外五名より提供 |
| 同 | 谷山 | | | |
| 同 | 貞光 | 一四〇九 | | 太田名より學校紀念林として寄付 |
| 三好 | 晝間 | 二八、〇七一八 | | 大字東山村より一三、五〇〇〇 大字晝間村より一四、五七一八を無償提供 |
| 同 | 三庄 | 八、八六二一 | | 大字西庄村字白石名より五六〇〇(實測三、二二〇〇) 大字西庄村より八、三〇二一を學校基本財産として提供 |
| 那賀 | 加茂 | 二二二、七二〇九 | | 大字水井村外四大字村より無償提供 |
| 海部 | 淺川 | 一六二、六五〇九 | | 大字淺川村一四〇、五四一七を無償提供 |
| 麻植 | 牛島 | 山林 二九〇一 原野 〇九二三 | | 大字淺川浦村二二、一〇二二を無償提供 |
| 同 | 同 | 山林 〇〇一六 原野 〇一四 | | 大字上浦村より無償提供 |
| 計 | | 六九一、九〇二五 | | 大字麻植塚村より無償提供 |

入會關係の整理は公有林野整理と關聯し地方林政中の重要事項に属すと雖も未だ整理に着手せず林野整理の進捗に従ひ着手せむとす

第六章 入會關係整理

第七章 森林組合

森林組合は林業開發上最も有益なる團體にして殊に本縣林野の實況に對し荒廢を防止し若くは荒廢せる森林を回復する爲め合同して造林を爲すの必要あり又所有者を異にせる小面積の森林多數交錯存在するもの或は多數共有の森林に於て單獨に施業をなす能はざるものゝ如きは合同して施業をなすに利あり又森林火災、盜伐等の防止其他の保護設備及林道の開鑿水路の疏通工事を施し林産物搬出を容易ならしめ未利用森林の開發を圖るが如きは所有者合同して施行するの必要あり故に明治四十二年産業組合設立補助規程に改正を加へ森林組合の設置に對しても補助金を交付することゝし指導誘掖を加へ之が設立を奨めつゝありと雖も他の産業に關する組合とは多少其趣を異にし設立上の困難を顧慮するの傾向ありて既設組合は極めて少數にして左の二組合に過ぎず何れも設立草創に屬し未だ其成績を見る能はずと雖も將來之か功益を認めらるゝに至らば漸次組合の設立は増加するを見るべし

| 名稱 | 位置 | 目的 | 地區内森林面積 | 組合員數 | 設立許可年月 |
|-----------------|------------|-------------------------|-----------|------|----------|
| 板東村保護土 工森林組合 | 板野郡 板東村 | 森林產物搬出の施設及 森林の危害防止 | 一六〇八、五八二六 | 三〇八 | 明治四十四年八月 |
| 野間施業森林 組合 | 名西郡 神領村 | 森林林用上の困難を排 除し且森林荒廢防止 | 四五、九〇〇五 | 七〇 | 大正二年一月 |

第四編 林野火入取締

本縣林野の荒廢は維新後森林制度弛廢し濫伐暴採到らざる所なく粗放なる管理に放任したるに因ると雖も古來の惡弊たる火入の慣行は益々盛に行はれたると且つ野火の延焼に依り遂に今日の結果を見るに至りしものにして國家經濟上並に國土保安上實に多大の損害を招致するに至れり故に明治二十一年山林火入取締規則（明治四十一年森林警察令と改む）を發布し火入の取締を勵行せり、又明治三十八年本件に關し郡市長に通牒せり其要に曰く柴草山は從來耕地の肥料及家畜の飼料採取地に供せらるゝも實際現在の如き廣漠なる面積を存置するの必要なく牧草の改良或は綠肥栽培等の方法を講ずるに於ては優に造林の余地を生ずべきを以て此際紀念事業として植林せしむべく尤も

柴草山の現況は多年產物の暴採と野火の侵害を蒙り著しく地力を衰耗せるもの多く直に有用樹種の植栽に適せざるべきに依り先づ數年間入林を禁止し天然生を養成し地方の増進を計劃せしむるを要す云々以て採草地の整理區分及林野の保護を督勵せり
明治四十一年縣令を以て木炭製造所を設置せむときは所轄警察官署に届出さしめ林野に於ける火氣の使用に對し取締を嚴にせり明治四十四年森林法中改正の結果森林、原野、山岳又は荒蕪地に於て火入を爲し得る場合を指定し即ち造林地々拵の爲め必要なるとき及森林開墾準備の爲め必要あるとき並に勝浦、那賀、海部、美馬、三好六郡地域内に於ける萱採取地に於て必要ある時は明治五十四年十二月（大正十年十二月）迄の期間内に火入を爲し得ることに制限し尙森林警察令を改正し火入の取締を嚴にせり因りて今後地方の回復を見るに至らむ

第五編 林産業の概況

本縣に於ける林産物の總價格は既往五ヶ年間の平均を觀るに二百八十九萬五千餘圓に

して其中木材約百五十七萬九千圓薪材約四十二萬八千圓木炭約四十二萬二千圓竹材其他雜產物約四十六萬六千圓なりとす而して縣外に移出する主なるものは木材（板類を含む）薪材、木炭の外建具、指物、履物及度量衡器等の木竹材加工品にして其總額百四十二萬六千圓を算し又縣外より移入する木材（板類を含む）等の總額は六十六萬八千餘圓にして主として木工品の原料其他建築材とあるべき用材なりとす

翻て本縣林地の狀況を觀るに明治維新後交通運搬至便なる地方は大半伐採せられ、加之爾來時勢の進運に伴ひ工業發達し木材の需用益々多きを加へ製材器機の利用旺盛となり過伐に失するに反し造林の之に伴はざる結果林相昔日の觀なきも由來森林面積廣大なると交通機關の發達に依り從來運搬不便なる僻遠の地に殘存せる老木を伐採すると需用の急に追はれ杉、扁柏の如きは成熟期を待たずして二十年乃至四十年生のものを伐採して上叙の産額を示せる實況なるを以て將來林業經營上大に留意を要す

第一章 木竹工業

本縣に於ける木竹材の工藝的利用は近時漸く發達を見たるものにして木竹工業品として縣外に移出する主なるものは建具、指物、履物及度量衡器等なりとす今其概況を示せば左の如し、

一、建具 德島市及那賀郡平島村に於て製作せらる、樅、杉、扁柏等を資料とせる戸障子類は明治七八年頃屏風地を主とし僅少の兩戸を製作し縣外移出を試みたるに始まり爾來經濟界の變動に依り一盛一衰を繰り返りしも概ね好況にして現在製造販賣戸數六十餘戸あり明治四十四年中に於ける製造額は二十七萬七千五百餘圓にして斯業の前途は木材應用上頗る有望なりとす

一、指物 德島市内に於て主として製作せらる、指物類は明治二十七八年頃神戸、兵庫の商舖より直接注文を受け移出したるに始まり爾來好況を呈し相當の移出あり明治四十四年中の移出金額は約拾萬圓にして今後多少の増加を見るならんも従業者は僅かに二十餘戸に過ぎず且つ主として薄資の職工にして家内の手工なるを以て現

下の状況にては著しき發達を見る能はざるも將來徒弟職工の技術進歩し精功あるものを製作するに至らば斯業の發達敢て難しとせず

一、履物

木履製造業は從來縣内産桐材を利用せらるゝに過ぎざりしが明治三十七八年頃北海道松材を移入し之を原料とし直履下駄を製造し縣外に移出を試みたるに好況を呈し移出地域近畿、中國、九州地方に及び逐年移出額増加し近年器機を使用する等盛んに製造をなしつゝあり現在其戸數約六十戸一ヶ年の製造高四百五十二萬足此價格二十九萬七千六百圓に達せり斯業の將來益々發展の趨勢なり、

一、度量衡器

本器の製作事業は明治八九年の創始に係り明治四十四年に於ける度量衡器の生産額は四十二萬八千餘箇にして其價額五萬五千餘圓なり其中約四割は木竹材を原料とせるものに屬し近時は機械を使用し盛んに製作し朝鮮其他全國に涉り移出し其數量二十一萬三千餘箇、此價額三萬五千三百餘圓にして將來益々隆盛に趨かむ

一、竹製器

明治四十四年中に於ける竹製器の産額は四萬五千五百餘圓にして主なる製品は箆、箒其他農用具等あるも本縣竹林の面積は千五百餘町歩あり資材豊富あるを以て本年教師を雇聘し輸出向竹細工の講習會を開催し當業者の傳習せしむる等斯業の發達に努め成績良好にして將來有望ある事業の一たるを失はず

第二章

木

炭

本縣木炭の産額は五ヶ年平均四百七十二萬千八百餘貫にして此價格四十二萬二千二百餘圓に達し重要林産物の一とす而して縣外に移出せらるゝものは僅々百三萬五千六百貫にして其價格十三萬餘圓に過ぎず由來本縣は炭材豊富なるも運搬の便ある森林は殆んど皆利用せられたるを以て製炭事業は人肩馬背に依るにあらざれば搬出すること能はざる僻遠の地方に推移の傾勢ありて漸次深山幽谷に於ける處女森林を利用せらるゝに至らむも山間樵夫の一稼業に過ぎざれば富業者は數十年來の粗法を墨守し他も亦之が改良に留意するもの少く品質、俵裝、容量等區々にして常に市場の聲價を失墜せ

るの事實あるは洵に遺憾とする所あり因て森林利用上天然雜木林の改良を圖ると共に製炭事業に改良を加へ需要に適應する措置に出で本縣木炭の聲價を發揚するは急務を認め明治三十八年德島縣山林會へ縣費を補助し製炭教師を雇聘せしめ各郡に傳習所を開設し直接斯業に従事する者を傳習生とし改良製炭法の普及を圖りしが更に同三十九年縣事業として木炭、醋酸、樟腦、椎茸、ポツタース等の林産製造法の傳習を行ひ斯業の改良發達を圖る目的を以て林産製造傳習規則を發布し其第一着手として前述の德島縣山林會の製炭改良事業を繼續施行し之が普及發達を圖らしむることゝしたり而して同山林會は同四十二年廣島縣高田郡三田村榎崎圭三を聘し榎崎式製炭法の普及に努めたるが從來の改良製炭法に比し頗る好評を博し成績優良なりしを以て爾來同法の普及を計りつゝあり、初年より傳習所を開催すること三十五回傳習生四百八十五名を出せり亦品質の改良と相俟て俵裝及容量を改善一定せしむるの緊急なるを認め論告を發布し俵裝、容量の標準を示し實効を挙げしむることに努めたり現今の海部郡赤河

内村に於ては産業組合を設置し品質、俵裝、容量の統一を實行し組合に於て検査を履行せるに其成績良好にして當業者の利益を増進し市場の好評を博するに至れり改良製炭法は在來法に比し勞費を要すること少く炭化率多く品質良好なるも未だ恰く實行を見るに至らざるを以て産額僅少なるも將來改良法の普及するに於ては産額増加し斯業の面目を一新するを得べし

木炭俵裝量目調査表

| 郡 | 種類 | 俵裝材料 | 量 | 目 | 製産地方 | 主ナル仕向地 |
|----|------|------|-------|---|------------------|----------|
| 名東 | 黒炭 | 同 | 二、七〇〇 | 同 | 佐那河内村 | 徳島 |
| | 同(松) | 同 | 二、七〇〇 | 同 | 同 | 同 |
| 勝浦 | 黒炭 | 同 | 二、五〇〇 | 同 | 多家良村、高鋒村、棚野村、福原村 | 紀州、徳島、撫養 |
| | 同(松) | 同 | 三、〇〇〇 | 同 | 多家良村、高鋒村、棚野村 | 大阪、徳島、撫養 |
| | 白炭 | 同 | 二、五〇〇 | 同 | 高鋒村、福原村 | 同 |

| 年次 | 主催者 | 傳習回数 | 傳習日數 | 傳習生數 | 傳習科目 | 教師ノ氏名 |
|--------|----------------|------|------|------|----------|-------|
| 明治三十八年 | 德島縣山林會 | 七 | 三〇 | 八三 | 木炭改良製造法 | 我妻德松 |
| 同 | 海部郡赤河内村 | 一 | 三 | 二 | 同 | |
| 同 三十九年 | 德島縣山林會 | 三 | 九 | 七 | 同 | 我妻德松 |
| 同 | 德島縣 | 七 | 二七 | 二三 | 同 | |
| 同 四十年 | 同 | 五 | 一〇 | 一〇 | 付醋酸石灰製造法 | 同 |
| 同 四十一年 | 德島縣山林會 | 一 | 四 | 八 | 木炭改良製造法 | 同 |
| 同 四十二年 | 三好郡箸藏村 | 一 | 六 | 七 | 醋酸石灰製造法 | 岩田照一 |
| 同 四十三年 | 德島縣山林會 | 二 | 三 | 四 | 檜崎式製炭法 | 檜崎圭三 |
| 同 | 同 | 一 | 三 | 五 | 同 | 星場新吉 |
| 同 四十四年 | 同 | 二 | 六 | 三 | 同 | 堺新吉 |
| 同 四十五年 | 同 | 二 | 六 | 四 | 同 | 堺新吉 |
| 同 四十五年 | 那賀郡加茂谷、新野、日野谷村 | 三 | 四 | 七 | 同 | 堺新吉 |

七〇

計

第三章 椎 茸

計 七三 四五

本縣に於ては到る處椎茸栽培の原料木豊富且氣候椎茸の栽培に適し海部郡木頭山及美馬郡西祖谷山、一字山地方は品質良好なるものを産出せり然るに栽培上の智識に乏しかりしを以て十數年前日向、伊豆地方より教師を雇聘したる者あるも多くは失敗に歸したるに依り爾來萎靡して振はず其産額僅少にして統計の示すところに依れば五ヶ年平均七千六百六十斤此價額五千三百二十二圓に過ぎざるが椎茸栽培事業は深山僻遠の地方に於ては林木利用上頗る有利にして林業家の好副業たるを失はず殊に近時人工栽培法行はれ成績佳良なるに依り明治四十年夏季東京帝國大學農科大學教授三村鐘三郎を招聘し各所に講話及實地指導をなし改良栽培法の普及發達を計れり尙ほ本縣山林會は當業者に補助金を交付し改良栽培法の試験を囑託する等斯業の改良發達に努めつゝあり

第四章 林業に關する各種組合

林産物の改良又は販路の擴張を圖るは林業經營上最も緊要なりとす殊に林産物の取引方法不完全なる爲め或は運材上弊害ある爲めに商賈に利益を壟斷せらるゝ場合尠きからず故に之が改善を圖り營業上の弊害を矯正し林業家の収益を一層多大ならしむるの必要あり現在縣下に於て之れが機關として設置せる各種組合は左の如し

林業に關係を有する各種組合(準則組合)調

| 組合名稱 | 設立認可年月日 | 現在組合員數 | 地區 | 目的 | 業務 |
|----------------------|-----------|--------|----------------------|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 那賀郡木材商組合 | 明治二十年五月 | 七八 | 那賀郡 | 弊を矯正し販路の擴張を謀り將來同業者の福利を増進するを以て目的とする | 一、吉野川筋三好郡山城谷村字猪坊に木材止場を設置すること 一、吉野川筋筏乗下及漂流木の取締に關すること 一、木材取引に關すること 一、販路擴張に關すること 一、製材改良に關すること 一、未利用森林開發に關すること 一、其他木材營業改善に關すること |
| 徳島市、名東郡の一部(津田大字津田浦村) | 明治三十年七月 | 五四 | 徳島市、名東郡の一部(津田大字津田浦村) | 製材の改良、販路の擴張を勉め從來の弊を矯正し將來營業上の福利を保全するを以て目的とする | 一、吉野川筋流疏通工事に關すること 一、那賀川筋筏乗下及漂流木取締に關すること 一、木材取引に關すること 一、其他木材營業改善に關すること |
| 名東郡木材取扱業者組合 | 明治三十年七月 | 二四 | 名西郡 | 同業者の弊害を矯正し販路の擴張を謀り將來同業者の福利を増進するを以て目的とする | 一、仕出木材の木取方法に關すること 一、製材用筋流材取締に關すること 一、販路擴張に關すること 一、其他木材營業改善に關すること |
| 徳島市木材商組合 | 明治四十四年十一月 | 一一 | 徳島市 | 組合員共同一致し營業上諸種の弊害を矯正し斯業の改良増進を謀り其利益を増進し且信用の聲價を發揚するを以て目的とする | 一、品質検査の改善及量目の統一を圖ること 一、共進會又は品評會を開設すること 一、斯業に關し諸般の調査を爲すこと 一、官廳に意見を開陳し及諮問に應答すること 一、斯業の功勞者及模範職工表旌のことに 一、其他斯業の改善を圖ること |
| 赤松村木炭製造組合 | 明治四十四年三月 | 一六七 | 海部郡赤松村 | 木炭の製造品質低装の改良、量目の一定を主とし營業上の弊害を矯正し販路の擴張を謀り其利益を増進し内外に信用を保持するを以て目的とする | 一、品評會、共進會及講話講習會を開催すること 一、官廳に請願建議し又は諮問に應答すること 一、組合員營業の検査すること 一、斯業功勞者の表旌をなすこと 一、斯業に關する諸般の調査をなすこと |

從來の同業者の惡

一、仕出木材の木取方法に關すること

木炭の製造品質低装の改良、量目の一定を主とし營業上の弊害を矯正し販路の擴張を謀り其利益を増進し内外に信用を保持するを以て目的とする

一、品質検査の改善及量目の統一を圖ること
一、共進會又は品評會を開設すること
一、斯業に關し諸般の調査を爲すこと
一、官廳に意見を開陳し及諮問に應答すること
一、斯業の功勞者及模範職工表旌のことに
一、其他斯業の改善を圖ること

第六編 郡有林

七四

縣下各郡は多少林野を有せざるなく植樹奨励に就ては補助金或は樹苗を交付する等の業の助長發達に努むるもの尠からざるが郡有林を設置し郡基本財産の造成を計り兼て營林の範を示し以て斯業の振興せむとするものは三好外四郡にして其總面積四百二十九町八反九畝二十一步に達す計劃及施業の狀況左の如し

郡有林計劃施業狀況調

| 郡 | 目的 | 施業計劃 | | 施業續年 | 地盤に對する利益關係 | 施業着手年度 | 施業實行 | |
|-----|------|----------|------------|---------------|------------|--------|-----------|-----------|
| | | 面積 | 經費 | | | | 面積 | 實行 |
| 三好郡 | 基本財産 | 二五、〇〇〇町 | 四八、五六一、八〇七 | 自明治三六 至大正二 | 地上 | 明治三六 | 四六八、三四七 | 七、九二〇、五二二 |
| 海部郡 | 同 | 七五、七〇〇町 | 七、三八六、六七五 | 自明治三六 至大正二 | 有 | 同 | 二二四、七〇二 | 五、三八九、一八九 |
| 那賀郡 | 模範林 | 六二、三九二町 | 五、五六〇、九一〇 | 自明治三六 至大正二 | 同 | 大正元 | 一七、五〇〇 | 二六、五五八 |
| 阿波郡 | 模範林 | 一〇〇、〇〇〇町 | 二、一〇四、八六〇 | 自明治三六 至大正二 | 同 | 明治三六 | 五九七、〇〇〇 | 五、六三三、〇〇〇 |
| 阿波郡 | 模範林 | 一〇、〇〇〇町 | 一、五〇〇、〇〇〇 | 自明治三六 至大正二 | 同 | 同 | 一八、〇〇〇 | 二、三六、〇〇〇 |
| 計 | | 二五、〇〇〇町 | 二四、八三三、八六〇 | | | | 六、五〇〇、〇〇〇 | 二、三六、〇〇〇 |

| 郡 | 目的 | 施業計劃 | | 施業續年 | 地盤に對する利益關係 | 施業着手年度 | 施業實行 | |
|-----|-----|---------|-----------|------|------------|--------|-----------|----------|
| | | 面積 | 經費 | | | | 面積 | 實行 |
| 阿波郡 | 模範林 | 一、〇〇〇町 | 八〇、〇〇〇 | 同 | 同 | 明治四一 | 九七〇、〇〇〇 | 六、〇〇〇 |
| 阿波郡 | 模範林 | 二、〇〇〇町 | 六〇、〇〇〇 | 同 | 同 | 明治四二 | 二、〇〇〇、〇〇〇 | 六、〇〇〇 |
| 阿波郡 | 模範林 | 三、八〇〇町 | 一、一〇、〇〇〇 | 同 | 同 | 明治四三 | 三、八〇〇、〇〇〇 | 一、一〇、〇〇〇 |
| 阿波郡 | 模範林 | 一〇、〇〇〇町 | 一、五〇〇、〇〇〇 | 同 | 同 | 明治四四 | 九、四二二、〇〇〇 | 三、五〇、〇〇〇 |
| 計 | | 一六、八〇〇町 | 一、七五〇、〇〇〇 | | | | 一六、一四七 | 六、七、六〇〇 |

第七編 市町村有林

時世の進運に伴ひ地方自治体の發達を促し年を追ふて經費の膨張を來し基本財産増殖の必要を認むるに至れり然るに森林の經營は地方自治体の基本財産を造成するに恰適當るを認め大に其奨励に努めつゝありしが三十七八年戰役は益々地方財政を鞏固からしむるの必要を感じしめ各市町村に於て基本財産造成の計劃をなすもの踵を接して起り殖林事業は著しく勃興の機運に向ひたるを以て此千載一遇の時局を機とし戰役紀念

七五

林又は基本財産林等の設置を奨励し且又明治四十三年公有林野造林補助規則を設け市町村又は町村組合の事業として林業経営をなすときは補助金を交付することとし鋭意勤奨したる結果市町村造林事業は左表の成績を見るに至れり

| 種別 | 箇所 | 面積 |
|-------|-----|------------|
| 基本財産林 | 五二〇 | 一、〇〇七、三五七町 |
| 模範林 | 一 | 一 |
| 學校樹栽林 | 八四 | 一〇〇、四四二五 |
| 計 | 五九四 | 一、一七〇、八〇二二 |

而して新植事業は各市町村經濟の狀態及び苗木需給の關係等に依り年々多少増減なきにあらざるも逐年増加しつつあり今茲に各町村別に計劃及施業の狀況を詳記すれば左の如し

市町村造林調

大正元年十二月末日現在

| 年度 | 目的 | 面積 | 實績 | | 行費 | 地盤二對する權利關係 | 市町村 | 備考 |
|--------|-------|-------------|-------------|-----|------------|-------------|------------|----|
| | | | 面積 | 樹種 | | | | |
| 大正元年計 | 防風及魚付 | 町 11000 | 町 11000 | 黒松 | 町 600 | 町 31000 | 官有地 沖洲村 | |
| 自治四十二年 | 學校基本 | 町 11000 | 町 11000 | スノキ | 町 190 | 町 119、四六 | 有勝占村 | |
| 至大正元年 | 財產 | 町 11000 | 町 11000 | スノキ | 町 6、九〇 | 町 三、八〇 | 學校有高鋒村 | |
| 自治三十七年 | 同 | 町 10、三三〇 | 町 10、三三〇 | スノキ | 町 三、三〇〇 | 町 一 | 同 | |
| 自治三十九年 | 同 | 町 11、〇〇〇 | 町 11、〇〇〇 | スノキ | 町 七〇〇 | 町 一 | 同 | |
| 自治四十年 | 同 | 町 11、〇〇〇 | 町 11、〇〇〇 | スノキ | 町 三、〇〇〇 | 町 一 | 同 | |
| 自治三十五年 | 同 | 町 六、〇〇〇 | 町 六、〇〇〇 | スノキ | 町 三、〇〇〇 | 町 三、〇〇〇 | 村有福原村 | |
| 自治三十九年 | 同 | 町 六、〇〇〇 | 町 六、〇〇〇 | スノキ | 町 三、〇〇〇 | 町 一 | 同 | |
| 同 | 戰役紀念 | 町 1613 | 町 1613 | スノキ | 町 三、五〇 | 町 一 | 同 | |

| | | | | | | | |
|-------------------|--------------|--------|--------|----------|----------|-----------|------------------------|
| 計 | 二元、三九二 | 二元、三九二 | 五二、九三〇 | 一、二八、三四六 | | | |
| 那賀郡 | | | | | | | |
| 自明治三十二年 至同三十八年 | 基本財産 | 一、四〇〇 | 一、五〇〇 | 一四、八五〇 | 四六、五〇〇 | 地上権 設定 | 福井村 収益分收 地主四、樹主六 |
| 自同四十二年 至大正元年 | 同 | 九、九七一 | 七、八〇〇 | 一四、元〇〇 | 二七、一九〇 | 村有同 | |
| 自明治三十九年 至大正元年 | 學校基本 財産 | 二、〇〇〇 | 二、〇〇〇 | 八、〇〇〇 | 三三、〇〇〇 | 地上権 設定 | 同 収益分收 地主三、樹主七 |
| 同 | 村及學校 基本財産 | 三〇、〇〇〇 | 三〇、〇〇〇 | 五〇、〇〇〇 | 一、〇〇、〇〇〇 | 同 | |
| 明治三十年 | 學校紀念 林 | 一、七〇〇 | 一、七〇〇 | 五、〇〇〇 | 五〇、〇〇〇 | 同 | 加茂谷 村 |
| 自同三十九年 至同四十年 | 同 | 七、五〇〇 | 七、五〇〇 | 一六、六〇〇 | 三三、三六〇 | 同 | |
| 同 | 基本財産 | 四五、〇〇〇 | 三〇、〇〇〇 | 五二、五〇〇 | 五〇〇、〇〇〇 | 村有 同 | 新野村 |
| 自同三十九年 至同四十年 | 同 | 五、八三二 | 五、八三二 | 一〇、〇〇〇 | 四〇〇、〇〇〇 | 同 | |

| | | | | | | | | |
|------------------|------------|--------|--------|--------|----------|-----------|-----------|------------------|
| 自同三十九年 至同四十年 | 同 | 一五、〇〇〇 | 一五、〇〇〇 | 四五、〇〇〇 | 一、三〇、〇〇〇 | 地上権 設定 | 鶯敷町 | |
| 明治三十九年 | 學校林 | 三、三一一 | 三、三一一 | 二、〇〇〇 | 四〇、〇〇〇 | 村有 | 相生村 | |
| 同 | 同 | 三、三一一 | 三、三一一 | 四〇〇 | 八、五〇〇 | 同 | 同 | |
| 大正元年 | 基本財産 | 一七、七 | 一七、七 | 五二〇 | 三、八〇〇 | 同 | 延野村 | |
| 大正元年 | 學校基本 財産 | 七、三五 | 七、三五 | 二、三三〇 | 六、八〇〇 | 村有 | 延野村 | |
| 明治三十九年 | 戰役紀念 財産 | 一、三六〇 | 一、三六〇 | 四、〇一一 | 二四、二〇〇 | 地上権 設定 | 日野谷 村 | 收益分收 地主五、樹主五 |
| 同 | 學校基本 財産 | 一、一五〇 | 一、一五〇 | 一、八三三 | 一〇、一六〇 | 同 | 同 | 全 地主四、五 樹主五、五 |
| 自同四十二年 至同四十二年 | 基本財産 | 八、七九一 | 五、二〇三 | 二二、九六 | 六、九〇〇 | 村有 | 宮濱村 | |
| 同 | 同 | 七、四〇〇 | 二、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | 一〇三、〇〇〇 | 同 | 坂洲木 頭村 | |
| 自同三十九年 至同四十二年 | 戰役紀念 財産 | 五、八七三 | 五、八七三 | 八、二〇〇 | 三〇、〇〇〇 | 同 | 橋浦村 | |
| 同 | 基本財産 | 一八、八三二 | 八、八〇〇 | 五、五〇〇 | 九、五〇〇 | 同 | 福井村 | |

| | | | | | | | |
|--------------|--------|-------|-----|--------|------------|---|------|
| 明治四十一年同 | 10,000 | 2,000 | 同 | 13,000 | 40,000 | 同 | 有江原村 |
| 同 四十三年基本財産 | 8,000 | 4,000 | スノキ | 13,000 | 100,000 | 同 | 同 |
| 同 四十四年同 | 4,000 | 2,000 | 同 | 11,000 | 41,100 | 同 | 同 |
| 同 四十三年學校基本財産 | 3,000 | 2,000 | 松 | 40,000 | 100,000 | 同 | 同 |
| 大正元年同 | 1,000 | 1,000 | 松 | 10,000 | 40,000 | 同 | 同 |
| 明治四十四年基本財産 | 5,000 | 5,000 | 杉 | 13,000 | 1,000,000 | 同 | 同 |
| 同 四十年同 | 4,510 | 4,510 | 櫟 | 11,000 | 1,000,000 | 同 | 同 |
| 同 四十三年同 | 1,915 | 1,915 | スノキ | 40,000 | 5,000,000 | 同 | 同 |
| 同 四十四年同 | 7,205 | 4,805 | スノキ | 15,000 | 2,675,000 | 同 | 同 |
| 同 四十年同 | 1,000 | 1,000 | スノキ | 4,715 | 7,750,000 | 同 | 一字村 |
| 同 四十三年同 | 10,000 | 4,000 | スノキ | 10,000 | 20,000,000 | 同 | 同 |
| 同 四十四年同 | 15,000 | 5,500 | スノキ | 7,500 | 3,900,000 | 同 | 同 |

| | | | | | | | |
|---------------|---------|---------|-----|---------|-----------|------|---------|
| 自同 三十八年同 | 4,815 | 2,500 | 同 | 37,000 | 401,000 | 同 | 牛田奥山村 |
| 自同 四十三年學校基本財産 | 6,000 | 6,000 | スノキ | 18,000 | 18,000 | 地上榎村 | 牛田奥山村 |
| 計 | 150,100 | 105,515 | | 615,061 | 6,333,628 | | |
| 自明治四十四年基本財産 | 15,468 | 5,768 | 櫟 | 17,298 | 186,000 | 村 | 有書間村 |
| 自明治三十二年學校基本財産 | 26,655 | 2,825 | スノキ | 133,370 | 96,950 | 同 | 三野村繼續事業 |
| 自明治三十六年基本財産 | 29,850 | 20,300 | 同 | 137,657 | 1,355,300 | 同 | 井内谷村 |
| 自同 三十八年職役紀念 | 682 | 682 | スノキ | 3,266 | 35,000 | 同 | 同 |
| 同 四十五年基本財産 | 19,156 | 13,805 | スノキ | 71,000 | 5,900,000 | 同 | 同 |
| 自同 三十六年學校基本財産 | 29,800 | 18,339 | スノキ | 111,033 | 1,245,930 | 同 | 同 |

三好郡

| | | | | | | | | |
|----|------|------|----------|----------|-----------|-----------|-----|--------------------|
| 自同 | 三十九年 | 學校基本 | 二、三三八 | 二、三三八 | 一九、七二〇 | 一九、〇〇〇 | 同 | 地代は収益間伐百分の十五皆伐百分の五 |
| 自同 | 四十年 | 基本財産 | 六〇〇 | 六〇〇 | 三、八五〇 | 同 | | |
| 自同 | 三十一年 | 基本財産 | 六〇〇 | 同 | 一、三八九 | 一九、八〇〇 | 村 | |
| 自同 | 四十年 | 學校基本 | 三、一〇〇〇 | 三、一〇〇〇 | 五九四 | 同 | 山城谷 | |
| 自同 | 四十一年 | 基本財産 | 同 | 同 | 八、七三六 | 九四、八〇〇 | 同 | |
| 自同 | 四十二年 | 基本財産 | 一五、九〇〇 | 一五、七〇〇 | 七四四 | 同 | 同 | |
| 自同 | 四十三年 | 基本財産 | 三、五三、七〇八 | 三、五三、〇〇〇 | 一、四、一三〇 | 五九、五〇〇 | 同 | |
| 總計 | | | 九五、六、四五六 | 九五、六、四五六 | 二九、二〇、二四六 | 二、一五六、二三三 | | |

第八編 德島縣山林會

本會は縣下に於ける林業並に斯業に關係ある商工業の改善發達を圖る目的を以て官民同志の士相謀り明治三十六年二月創設したるものにして左記の事項を施設す

- 一、林業講話及講習
- 一、林業並に治水に關する試験及調査

- 一、林業並に治水に關する事項を編纂したる會報及書籍の發刊
 - 一、林業に關し官廳の諮問に答へ及意見を開申すること
 - 一、林業上諸般の獎勵補助
 - 一、林業に關する標本及器具、圖書等を蒐集し衆庶の縦覽に供すること
 - 一、林産物の販路擴張を圖ること
 - 一、林業上の質疑應答
 - 一、其他林業の改良發達に關する一切の事項
- 本會員の大正元年末現在數は千三百十七名にして基本財産として公債證書額面千六百圓及現金七拾參圓十八錢の外模範竹林地面積一町四反六畝八歩を所有し之に因り維持經營しつゝあり毎年度の經費は施設事業の關係に依り増減を免れざるも大正二年度の經費豫算は千三百四拾八圓なり縣に於て明治三十九年度以降貳百圓乃至千貳百圓の補助金を交付し事業を助成せり今既往に於ける施設事業の梗概を擧ぐれば知名の學者

實業家を招聘し林業講習又は講話會を開催し林業に關する智識の啓發普及を圖り又森林副産物の改善發達を期する爲め教師を聘し製炭改良法の傳習所を開設し或は當業者に補助金を下付し改良椎茸栽培法の試験を囑託し斯業の改良普及を圖り造林若くは木炭品評會を開催し其發達に努め又模範竹林を設置し實地に經營の範を示し其他會報並に諸般の冊子を刊行し廣く會員其他に頒布する等専ら本縣林業の振興發展に努力せり

附 錄
林 業 統 計

第一 林業講習

| 主催者 | 開會數 | | 講習生數 | 講師數 | 講習科目 | 費用 | | | | |
|--------|-----|-----|------|-----|-------------------------|----|---------|--------|--------|---------|
| | 回数 | 日數 | | | | 縣費 | 郡費 | 市町村費 | 其他 | 計 |
| 德島縣山林會 | 六 | 二六 | 一六六 | 二 | 造林學大意 造林法一般 | — | — | 四、五〇〇 | 一九、五〇〇 | 二四、〇〇〇 |
| 同 | 二 | 二六 | 一四 | 二 | 檜崎式製炭法 | — | — | — | 四七、九五〇 | 四七、九五〇 |
| 町村 | 六 | 一五 | 二〇二 | 一 | 林學大意 公有林野整理 | — | — | 五、五〇〇 | — | 五、五〇〇 |
| 同 | 三 | 四 | 三七 | 二 | 檜崎式製炭法 | — | 一五〇、〇〇〇 | 一四、五〇〇 | — | 二七四、五〇〇 |
| 町村農會 | 三 | 五 | 五〇 | 一 | 林學大意 公有林野整理 竹林經營法 | — | — | — | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 計 | 一九 | 一三三 | 四六六 | 八 | | — | 一五〇、〇〇〇 | 一四、五〇〇 | 六、四五〇 | 三二二、九五〇 |

一、講習の成績 講習生は當業者、町村吏員、小學校教員等にして概ね習得したる智識を實地に應用し漸次進境に近きつゝ、あるを疑はず尙講習は應用に重きを置き親しく之れが實地指導に努められれば當業者に對しては其効果多大なるべしと信ず

一、講師の資格氏名

德島縣林業技師
 德島縣 技手
 德島縣山林會林產製造教師
 同

日置正敏
 尾白辰三郎
 堺新吉
 英丑太郎

第二 標柱建設成績表

| 種別 | 面積 | 積 | 圃地箇所 | 亡失本數 | 本數 | | 單價 | 總額 |
|------------|----------|----|------|------|-----|--------|--------|----|
| | | | | | 新 | 舊 | | |
| 保水 防備林 | 一九、一二一六 | 一四 | 一四 | 二二 | 九一〇 | 一九、一一〇 | 九〇、〇九〇 | |
| 安土砂 并止林 | 一三四、〇〇二一 | 四九 | 四九 | 七八 | 九一〇 | 七〇、九八〇 | 九〇、〇九〇 | |
| 林計 | 一五三、一三〇七 | 六三 | 六三 | 九九 | 九一〇 | 九〇、〇九〇 | 九〇、〇九〇 | |

備考
 一、吉野川流域に於ける治水上重要の關係を有する阿波、美馬、三好三郡に建設したり

第三 樹苗圃の個所坪數 其の一

大正元年十二月末現在

| 縣郡市 | 部 | 農會 | 山林會 | 山林學會 | 其他組合 | 各種私立學校 | 個體計 | 德島 | | 東 | | 勝浦 | | 那賀 | | 海部 | | 西 | |
|--------|---|----|-----|------|------|--------|-----|-----|-------|-----|----|-----|----|-----|-------|-----|----|-----|----|
| | | | | | | | | 箇所數 | 坪數 | 箇所數 | 坪數 | 箇所數 | 坪數 | 箇所數 | 坪數 | 箇所數 | 坪數 | 箇所數 | 坪數 |
| 縣 | | | | | | | | 一 | 三、八四九 | | | | | 二 | 四、六五四 | | | | |
| 郡 | | | | | | | | | | | | | | 一 | 一、三三〇 | | | | |
| 市 | | | | | | | | | | | | | | 一 | 一、三三〇 | | | | |
| 町 | | | | | | | | | | | | | | 一 | 一、三三〇 | | | | |
| 村 | | | | | | | | | | | | | | 一 | 一、三三〇 | | | | |
| 部 | | | | | | | | | | | | | | 一 | 一、三三〇 | | | | |
| 農會 | | | | | | | | | | | | | | 一 | 一、三三〇 | | | | |
| 山林會 | | | | | | | | | | | | | | 一 | 一、三三〇 | | | | |
| 山林學會 | | | | | | | | | | | | | | 一 | 一、三三〇 | | | | |
| 其他組合 | | | | | | | | | | | | | | 一 | 一、三三〇 | | | | |
| 各種私立學校 | | | | | | | | | | | | | | 一 | 一、三三〇 | | | | |
| 個體計 | | | | | | | | | | | | | | 一 | 一、三三〇 | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | 二 | 四、六五四 | | | | |

| 郡市 | 總島 | | 名東 | | 勝浦 | | 那賀 | | 海部 | | 名西 | | 板野 | |
|--------|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| | 私 | 公 | 私 | 公 | 私 | 公 | 私 | 公 | 私 | 公 | 私 | 公 | 私 | 公 |
| 所有別 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 |
| 耕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 地積 | | | | | | | | | | | | | | |
| 宅 | | | | | | | | | | | | | | |
| 地積 | | | | | | | | | | | | | | |
| 燒畑切替畑 | | | | | | | | | | | | | | |
| 其他地目變換 | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | | | | | | | | | | | | |
| 面積 | | | | | | | | | | | | | | |

第七 鑛產調

大正元年末調

| 計 | 三好 | | 美馬 | | 麻植 | | 阿波 | |
|--------|----|---|----|---|----|---|----|---|
| | 私 | 公 | 私 | 公 | 私 | 公 | 私 | 公 |
| 所有別 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 |
| 耕 | | | | | | | | |
| 地積 | | | | | | | | |
| 宅 | | | | | | | | |
| 地積 | | | | | | | | |
| 燒畑切替畑 | | | | | | | | |
| 其他地目變換 | | | | | | | | |
| 計 | | | | | | | | |
| 面積 | | | | | | | | |

| 鑛山名 | 所在 | 地 | 鑛種 | 探鑛高 | 鑛石販賣高 | 製出高 | 製品販賣高 |
|-----|--------|---|----|---------|-------|--------|--------|
| 川田山 | 麻植郡三山村 | 銅 | | 三、八、〇八三 | 一、〇八八 | 一三、〇八二 | 一五、七七五 |
| | | | | 六四 | 六四 | | 五〇、九二六 |

| 名 | 海 | 那 | 勝 | 名 | 德 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 西 | 部 | 賀 | 浦 | 東 | 島 |
| 私社公 計寺有有 | 私社公 計寺有有 | 私社公 計寺有有 | 私社公 計寺有有 | 私社公 計寺有有 | 私社公 計寺有有 |
| 七五〇 七二四 | 八八三 八六二 | 八八三 八三五 | 四〇三 四〇九 | 一一二 一〇四 | 二一八 一八四 |
| 一一一 一一六 | 六六三 六三〇 | 七三六 七二八 | 四三三 四三三 | 一五〇 一四七 | 一〇八 一〇二 |
| 二〇七 二〇七 | 二二二 二二二 | 三三三 三三一 | 九九 九九 | 六六 六六 | |
| 二〇一 二〇一 | 一五七 一五七 | 一八七 一八七 | 二二三 二二三 | 八八 八八 | |
| 五五二 五六二 | 二七九 二六五 | 一〇九 九九五 | 一九一 一八三 | 四三二 四三二 | |
| 三六二 三六二 | 一一一 一〇八 | 一一一 一〇五 | 二七八 二六八 | 五三一 五三一 | |
| 九九 九九 | 二二 二二 | 二二 二二 | 一七 一七 | 一一 一一 | |
| 四四 四五 | 二二 二二 | 四四 四四 | 五 五 | 二二 二二 | |
| 一〇八 一〇七 | 一〇六 一〇六 | 二二 二二 | 七 七 | 三三 三三 | |
| 五五 五五 | 一〇 一〇 | 二二 二二 | 八 八 | 三三 三三 | |

第八 竹林の個所面積

| 郡市 | 所有別 | 苦竹 | 淡竹 | 江南竹 | 其他 | 計 |
|----|-----|-----------|----------|------------|---------|---------|
| 南 | 谷 | 海部郡奥木頭村 | 同 | | | |
| 淺 | 川 | 海部郡淺川村 | 銅 | | | |
| 東 | 山 | 麻植郡東山村 | 銅 硫化鉄 | | | |
| 水 | 銀 | 那賀郡加茂谷村 | 水銀 | | | |
| 祖 | 谷 | 美馬郡東祖谷山村 | 同 | | | |
| 神 | 領 | 名西郡神領村 | 同 | | | |
| 三 | 繩 | 三好郡三繩村 | 同 | | | |
| 大 | 内 | 麻植郡三山村 | 同 | | | |
| 中 | 西 | 三好郡三繩村 | 同 | | | |
| 計 | | | | | | |
| | | 一一、六四、八四三 | 七五五 | 二〇、八四九、八五五 | 六〇六、〇五〇 | 一四八、四一七 |
| | | 九、六七〇、四二六 | 九一、一四五 | 九、六九〇、八五〇 | 九、九六九 | 一五〇、六六五 |
| | | 一、二八〇、五〇八 | | 一、〇六七、五〇七 | 七〇、六七六 | 一七、七七三 |
| | | 四〇、四九九 | | 四八〇 | 二六 | 四四三 |
| | | 一六、七二〇 | | | | 一七、七七三 |
| | | | | | | 一七、七七三 |
| | | | | | | 八、一九三 |
| | | | | | | 二、八九六 |
| | | | | | | 六、九三三 |

大正元年十二月末現在

| 計 | 三好 | | | 美馬 | | | 麻植 | | | 阿波 | | | 板野 | | |
|--------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|
| | 私計 | 社寺有 | 公有 | 私計 | 社寺有 | 公有 | 私計 | 社寺有 | 公有 | 私計 | 社寺有 | 公有 | 私計 | 社寺有 | 公有 |
| 一三、二九六 | 一、〇四一 | 一、〇四一 | 一一、二五五 | 三、七四一 | 三、六九九 | 一一、〇四二 | 一、四九一 | 一、四九一 | 八〇三 | 七九五 | 七九五 | 一一、〇六二 | 一一、〇六二 | 一一、〇六二 | 一一、〇六二 |
| 一〇、五八九 | 一、二八八 | 一、二八八 | 九、三〇一 | 三、三二五 | 三、二〇九 | 六、〇九六 | 一、九七六 | 一、九七六 | 一、〇九九 | 九九九 | 九九九 | 七、七三〇 | 七、七三〇 | 七、七三〇 | 七、七三〇 |
| 一、六〇五 | 一、〇三一 | 一、〇三一 | 六、二七四 | 一、〇三一 | 一、〇三一 | 五、二六三 | 九六六 | 九六六 | 一、七七一 | 一、七七一 | 一、七七一 | 三、〇三二 | 三、〇三二 | 三、〇三二 | 三、〇三二 |
| 一一、七七一 | 二、〇〇〇 | 二、〇〇〇 | 九、七七一 | 二、〇〇〇 | 二、〇〇〇 | 七、七七一 | 五九九 | 五九九 | 一、〇〇三 | 一、〇〇三 | 一、〇〇三 | 二、〇九一 | 二、〇九一 | 二、〇九一 | 二、〇九一 |
| 二、八八三 | 二、八八三 | 二、八八三 | 六、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | 七、七七一 | 七、七七一 | 九六六 | 九六六 | 九六六 | 六六六 | 六六六 | 六六六 | 六六六 |
| 一、八二七 | 一、八二七 | 一、八二七 | 六六六 | 六六六 | 六六六 | 一、四八六 | 一、五三三 | 一、五三三 | 二、三三三 | 二、三三三 | 二、三三三 | 一一一 | 一一一 | 一一一 | 一一一 |
| 一、九五六 | 一、九五六 | 一、九五六 | 二、六二二 | 二、六二二 | 二、六二二 | 三、〇七三 | 三、四三三 | 三、四三三 | 五五五 | 五五五 | 五五五 | 五〇〇 | 五〇〇 | 五〇〇 | 五〇〇 |
| 二、〇〇三 | 二、〇〇三 | 二、〇〇三 | 一一、〇八三 | 一一、〇八三 | 一一、〇八三 | 八八八 | 一一〇 | 一一〇 | 二、七七七 | 二、七七七 | 二、七七七 | 一、八七五 | 一、八七五 | 一、八七五 | 一、八七五 |
| 一、八七九 | 一、八七九 | 一、八七九 | 三、三三三 | 三、三三三 | 三、三三三 | 四、〇〇〇 | 一、七三三 | 一、七三三 | 一一一 | 一一一 | 一一一 | 一、六九〇 | 一、六九〇 | 一、六九〇 | 一、六九〇 |
| 一、五九六 | 一、五九六 | 一、五九六 | 二、二二二 | 二、二二二 | 二、二二二 | 四、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一一一 | 一一一 | 一一一 | 九八七 | 九八七 | 九八七 | 九八七 |

第九 明治四十五年 大正元年 中林野火災面積及損害見積價格

| 火災原因 | 國有 | | | 公有 | | | 社寺有 | | | 私 | | |
|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|
| | 面積 | 損害見積價格 | 面積 | 損害見積價格 | 面積 | 損害見積價格 | 面積 | 損害見積價格 | 面積 | 損害見積價格 | 面積 | 損害見積價格 |
| 無願火入に依るもの | | | | | | | | | | | | |
| 放火に依るもの | | | | | | | | | | | | |
| 失火に依るもの | | | | | | | | | | | | |
| 焚火 | | | | | | | | | | | | |
| 火入 | | | | | | | | | | | | |
| 煙草吸殻 | | | | | | | | | | | | |
| 其他 | | | | | | | | | | | | |
| 原因不明のもの | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 四、〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇 | 四、〇〇〇 | 三、〇〇〇、〇〇〇 |

第十 明治四十五年 大正元年 中火入許可件數及面積

公有林植栽 其の二

| 縣 | 櫟 | | | 其他 | | | 計 | | |
|----|----|----|----|--------|----|----|-----|----|-------|
| | 面積 | 數量 | 經費 | 面積 | 數量 | 經費 | 面積 | 數量 | 經費 |
| 德島 | | | | 10,000 | | 95 | 700 | | 2,970 |
| 勝浦 | | | | | | | | | 2,500 |
| 那賀 | | | | | | | | | 10 |
| 海部 | | | | | | | | | 9,850 |
| 名西 | | | | | | | | | 4,300 |
| 板野 | | | | | | | | | 4,300 |
| 阿波 | | | | | | | | | 10 |
| 麻植 | | | | | | | | | 3,000 |
| 美馬 | | | | | | | | | 1,900 |
| 好馬 | | | | | | | | | 2,000 |
| 計 | | | | | | | | | 9,340 |

第十二 社寺有林植栽

大正元年十二月末現在

| 縣 | 扁柏 | | | 杉 | | | 松 | | | 計 | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 面積 | 數量 | 經費 | 面積 | 數量 | 經費 | 面積 | 數量 | 經費 | 面積 | 數量 | 經費 |
| 德島 | | | | | | | | | | | | |
| 勝浦 | | | | | | | | | | | | |
| 那賀 | | | | | | | | | | | | |
| 海部 | | | | | | | | | | | | |
| 名西 | | | | | | | | | | | | |
| 板野 | | | | | | | | | | | | |
| 阿波 | | | | | | | | | | | | |
| 麻植 | | | | | | | | | | | | |
| 美馬 | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | | | | | | | | | | |

| 計 | 三好 | | 美馬 | |
|----------|----------|------|----------|------|
| | 其火風 計 | 其他災害 | 其火風 計 | 其他災害 |
| 計 | 二、三五 | 一、二六 | 六、三五 | 五、〇〇 |
| 其火風 計 | 二、三五 | 一、二六 | 六、三五 | 五、〇〇 |
| 其他災害 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 計 | 二、三五 | 一、二六 | 六、三五 | 五、〇〇 |
| 其火風 計 | 二、三五 | 一、二六 | 六、三五 | 五、〇〇 |
| 其他災害 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 計 | 二、三五 | 一、二六 | 六、三五 | 五、〇〇 |
| 其火風 計 | 二、三五 | 一、二六 | 六、三五 | 五、〇〇 |
| 其他災害 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 計 | 二、三五 | 一、二六 | 六、三五 | 五、〇〇 |
| 其火風 計 | 二、三五 | 一、二六 | 六、三五 | 五、〇〇 |
| 其他災害 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

第十九

林產物雜類

其二

大正元年十二月末現在

| 那勝名德 | 丸及角材 | 數量 | 價格 | 挽 | 數量 | 價格 | 樽 | 數量 | 價格 | 木 | 數量 | 價格 | 包裝箱用材 | 數量 | 價格 | 車輪用材 | 數量 | 價格 |
|------|----------|---------|-----|----------|--------|----|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 賀浦東島 | 一、二七、二六六 | 四七、七、四八 | 四八〇 | 一、六三、〇〇〇 | 八二、一五〇 | 九 | 九 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 那勝名德 | 五、一〇七 | 一四、一六六 | 四八〇 | 一、六三、〇〇〇 | 八二、一五〇 | 九 | 九 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 賀浦東島 | 一、二七、二六六 | 四七、七、四八 | 四八〇 | 一、六三、〇〇〇 | 八二、一五〇 | 九 | 九 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 | 一、〇〇〇 |

| 計 | 三好 | | 美馬 | | 麻植 | | 阿波 | | 板野 | | 名西 | | 海部 | |
|----|----------|----------|----------|--------|----------|--------|----------|--------|----------|------|----------|--------|----------|--------|
| | 其火風 計 | 其他災害 | 其火風 計 | 其他災害 | 其火風 計 | 其他災害 | 其火風 計 | 其他災害 | 其火風 計 | 其他災害 | 其火風 計 | 其他災害 | 其火風 計 | 其他災害 |
| 計 | 二、六八、二六二 | 一、二八、四三三 | 二、四四、二八〇 | 六六、〇一七 | 七九、四九〇 | 二六、四五二 | 三三、〇〇〇 | 二四、〇〇〇 | 五、二〇 | 九、五〇 | 二二、四四六 | 一〇、一六三 | 八、六八九 | 八五、二一〇 |
| 三好 | 二、六八、二六二 | 一、二八、四三三 | 二、四四、二八〇 | 六六、〇一七 | 七九、四九〇 | 二六、四五二 | 三三、〇〇〇 | 二四、〇〇〇 | 五、二〇 | 九、五〇 | 二二、四四六 | 一〇、一六三 | 八、六八九 | 八五、二一〇 |
| 美馬 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 麻植 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 阿波 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 板野 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 名西 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 海部 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |

林產物雜類 其二

| 勝名德 | 下 | 數量 | 價格 | 經 | 數量 | 價格 | 木 | 數量 | 價格 | 製紙原料木片 | 數量 | 價格 | 竹 | 數量 | 價格 | 材 | 數量 | 價格 | 繪 | 數量 | 價格 | 皮 | 數量 | 價格 |
|-----|---|----|----|---|----|----|---|----|----|--------|----|----|---|----|----|---|----|----|---|----|----|---|----|----|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 勝名德 | 下 | 數量 | 價格 | 經 | 數量 | 價格 | 木 | 數量 | 價格 | 製紙原料木片 | 數量 | 價格 | 竹 | 數量 | 價格 | 材 | 數量 | 價格 | 繪 | 數量 | 價格 | 皮 | 數量 | 價格 |
| 浦東島 | 下 | 數量 | 價格 | 經 | 數量 | 價格 | 木 | 數量 | 價格 | 製紙原料木片 | 數量 | 價格 | 竹 | 數量 | 價格 | 材 | 數量 | 價格 | 繪 | 數量 | 價格 | 皮 | 數量 | 價格 |

| 計 | 三好 | | | 美馬 | | | 麻植 | | | 阿波 | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 其市郡縣 | | | 其市郡縣 | | | 其市郡縣 | | | 其市郡縣 | | |
| | 其他 | 町 | 團 | 其他 | 町 | 團 | 其他 | 町 | 團 | 其他 | 町 | 團 |
| 九二〇 | 一〇〇 | 一一〇 | 一一〇 | 二六八 | 二二一 | 一七四 | 一 | 六三二 | 一 | 五一一 | 一 | 五一一 |
| 一、三六〇、八四二 | 一、〇〇七、三五七 | 一、〇〇七、三五七 | 一、〇〇七、三五七 | 四七八、八二〇 | 二〇三、九一〇 | 三〇九、一〇三 | 一八六、四八三 | 二五、五〇〇 | 八七、五〇〇 | 一、二六八 | 二五、六〇〇 | 二五、五〇〇 |
| 三 | 二〇 | 二〇 | 二〇 | 二一 | 二一 | 二一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二 | 五 |
| 二、七二六 | 四一三、三〇二 | 一、六七九、七五二 | 一、六七九、七五二 | 四七八、八二〇 | 二〇三、九一〇 | 三〇九、一〇三 | 一八六、四八三 | 八七、五〇〇 | 七二六 | 二、〇〇〇 | 二五、六〇〇 | 二五、五〇〇 |
| 七 | 六 | 七 | 七 | 七 | 七 | 七 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一〇〇、四二五 | 一一、四二五 | 一一、四二五 | 一一、四二五 | 一一、四二五 | 一一、四二五 | 一一、四二五 | 五、二八〇 | 一一、四二五 | 一一、四二五 | 一一、四二五 | 一一、四二五 | 一一、四二五 |

大正二年十一月十九日印刷
 大正二年十一月二十日發行

德島縣內務部林業課

德島縣德島市安宅町九十二番屋敷

印刷者 酒井虎太郎

德島縣德島市寺島町九十三番屋敷

印刷所 株式會社 德島毎日新聞社印刷部

350
184

| |
|-----|
| 350 |
| 184 |

終

終